

令和4年度（2022年度）

事業報告書

自 令和 4年4月1日

至 令和 5年3月31日

I. 法人の概要.....	1
II. 実施事業と成果	
1. 森ノ宮医療大学、みどりの風クリニック・大阪ベイクリニック.....	14
2. 森ノ宮医療学園専門学校、京都治療院.....	61
3. 森ノ宮医療学園ランゲージスクール、派遣事業部.....	74
III. 決算の概要.....	82

学校法人森ノ宮医療学園
大阪市東成区中本4丁目1番8号

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例
について」を参考に構成しています。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校(大阪市東成区)
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒後教育雑誌「鍼灸OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicineと教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
平成14年(2002)	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業、創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学(大阪市住之江区)
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ(学生食堂)オープン

平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟(ウエストポート)竣工、森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置	
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可	
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定	
平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結	
	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結	
	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結	
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結	
平成28年(2016)	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結	
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設。保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設	
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学新棟(キャナルポート)竣工、新体育館、新図書館併設	
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工	
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携	
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行	
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入	
	平成29年(2017)	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所(ERP 下鴨南治療院)開業	
12月	森ノ宮医療大学 西校地南側に運動施設(グリーンスクエア)を整備		
平成30年(2018)	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会附属日生病院(現:日本生命病院)と相互連携協定締結	
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学(Curtin University)と連携協定締結	
	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科医療科学専攻(博士後期課程)開設	
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結	
平成31年(2019)	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。	
平成31年(2019)	4月	森ノ宮医療学園ランゲージスクール開校	

令和2年(2020)	2月	森ノ宮医療大学 桜棟校舎竣工
	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部放射線学科を開設、大学院保健医療学研究科看護学専攻(修士課程)を設置、開設 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科細胞検査士課程開設
	9月	森ノ宮医療大学 社会医療法人愛仁会と相互連携協定締結
	10月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪みなと中央病院と相互連携協定締結
	11月	森ノ宮医療学園 イカリソース株式会社と包括連携協定締結
令和3年(2021)	12月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪病院と相互連携協定締結
	2月	森ノ宮医療大学 チュニジア Tunis El Manar 大学(チュスニエルマナール大学)と連携協定締結
	6月	森ノ宮医療学園 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と相互連携協定締結
	8月	森ノ宮医療大学 NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪と相互連携協定締結
令和4年(2022)	3月	森ノ宮医療大学パスレルポート(部室棟)竣工
	4月	森ノ宮医療大学保健医療学部を看護学部、総合リハビリテーション学部、医療技術学部に変更(2022年度入学生より) 森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科 看護学専攻(博士後期課程)開設、看護学専攻(博士前期課程※)NPコース開設 ※修士課程から改称
		森ノ宮医療学園 西尾レントオール株式会社と相互連携協定締結
	5月	森ノ宮医療大学 医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院と相互連携協定締結
	9月	森ノ宮医療学園 大阪市と包括連携協定締結
	11月	森ノ宮医療大学附属クリニック「大阪ベイクリニック」開院

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮 医療大学 ※令和4年度 に学部再編	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成 23 年度
		大学院保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程／ 博士前期課程）	2	6	0	12	開設年度 令和 2 年度
		大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	4	開設年度 平成 30 年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成 19 年度
		保健医療学部／ 総合リハビリテーション学部 理学療法学科	4	70	0	280	
		保健医療学部／ 看護学部 看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成 23 年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 臨床検査学科	4	70	0	270	開設年度 平成 28 年度
		保健医療学部／ 総合リハビリテーション学部 作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成 28 年度
		保健医療学部／ 医療技術学部 臨床工学科	4	60	0	180	開設年度 平成 30 年度
保健医療学部／ 医療技術学部 診療放射線学科		4	80	0	240	開設年度 令和 2 年度	
助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成 28 年度		

森ノ宮 医療学園専 門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	360	開設年度 昭和 48 年度
	医療専門課程柔道整復学科	3	90	0	300	開設年度 平成 12 年度
森ノ宮 医 療学園 ランゲージ スクール	日本語学科進学1 年コース	1	20	0	20	開設年度 平成 31 年度
	日本語学科進学 1 年6 か月コース	1.5	90	0	90	
	日本語学科進学2 年コース	2	20	0	40	
	介護福祉学科	2	80	0	160	開設年度 令和 3 年度

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	32,936.65	7,193.15 (東棟)	令和元年度に桜棟 (5,422.25 m ²)完成
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		10,939.69 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管理棟)	
		5,422.25 (桜棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	28,713.10	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール (大阪市住之江区南港北1丁目28番9号)		673.31 (日本語学科棟)	
		1,070.90 (介護福祉学科棟)	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール		1,744.21	
総合計	36,176.83	38,101.91	

(2022年 5 月 1 日現在)

5. 役員の概要

(2022年4月1日現在)

・定員数：理事8～14名、監事2～4名 ・現員数：理事8名、監事2名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 11 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-2	
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-3	
理事	松浦成昭	平成 31 年 4 月	7-1-3	
理事	笠山宗正	平成 31 年 4 月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成 11 年 5 月		
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		

6. 評議員の概要

(2022年4月1日現在)

・定員数17～29名 ・現員数：19名

氏名	寄附行為上の選任区分
山下 仁	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
三木屋良輔	25-1-1
松下美穂	25-1-1
吉村弥須子	25-1-1
石塚充弘	25-1-1
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2
清水尚道	25-1-2

尾崎朋文	25-1-2
河内 明	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木 信	25-1-3
赤丸敏行	25-1-3
安田 実	25-1-3
青木元邦	25-1-3
吉岡敏治	25-1-3

7. 教職員の概要

(2022年 5 月 1 日現在)

●大学

区分	人数
本務教員	144
本務職員	55

(学校基本調査に基づく)

●専門学校

区分	人数
本務教員	17
本務職員	33

(学校基本調査に基づく)

●森ノ宮医療学園ランゲージスクール

区分	人数
本務教員	12
本務職員	6

●法人本部、その他事業所

区分	人数
本務職員	12

8. その他

●主な加盟団体

No.	加盟団体名	部門	部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務課	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務課	
7	日本私立大学協会	大	総務課	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務課	
9	西日本私立大学振興協議会	大	企画課	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務課	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務課	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務課	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務課	
14	広域大学連携事業	大	教務課	
15	関西地区 FD 連絡協議会	大	企画課	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援課	
17	実験動物施設協議会	大	事務局	
18	関西生産性本部	大	事務局	
19	学校経営品質向上研究会	大	事務局	
20	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
21	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
22	公益社団法人 全日本鍼灸学会	大	鍼灸学科	
23	公益社団法人 日本鍼灸師会	大	鍼灸学科	
24	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	大	鍼灸学科	
25	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	
26	鍼灸学系大学協議会	大	鍼灸学科	
27	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	理学療法 作業療法 関係
28	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
29	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	看護関係
30	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
31	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科 助産学専攻科	
32	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
33	公益財団法人大阪府看護協会	大	看護学科	
34	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
35	一般社団法人大阪府臨床工学技士会	大	臨床工学科	臨床工学 関係
36	全国診療放射線技師教育施設協議会	大	診療放射線学科	診療放射線 関係
37	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	

38	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
39	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
40	日本看護図書館協会	大	図書館	
41	一般社団法人 日本温泉気候物理学医学会	大	図書館	
42	経絡治療学会	大	図書館	
43	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
44	東成防火協力会	専	事務局	
45	東成防犯協会	専	事務局	
46	中本連合中本第一町会	専	事務局	
47	中本社会福祉協議会	専	事務局	
48	コスモスクエア地区開発協議会	大	学長室	
49	大阪商工会議所	大	事務局	
50	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
51	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
52	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	
53	一般社団法人全国日本語学校連合会	WLS	事務課	日本語教育 関係

●主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22.4.6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	2017/4/1 大阪府立急性 期・総合医療センターから改称
H23.7.11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23.12.9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25.5.27	公益財団法人田附興風会医学研究 所 北野病院	相互連携	
H26.1.9	大阪府住之江区	包括連携	
H26.1.15	医療法人協和会	相互連携	
H26.6.3	高槻市教育委員会	連携協定	
H26.11.19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学 部との連携
H26.11.25	吹田市教育委員会	連携協定	
H27.2.19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27.3.9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27.4.15	大阪市教育委員会	※	※ボランティアについての協定
H27.7.27	守口市教育委員会	連携協定	
H28.1.29	社会福祉法人帝塚山福社会	相互連携	
H28.6.13	地方独立行政法人大阪府立病院機 構 大阪国際がんセンター	相互連携	2017/4/1 大阪府立成人病セン ターから改称
H28.8.22	学校法人常翔学園	※	※スタッフディベロップメ ントにおける大学間連携
H29.2.24	社会医療法人純幸会 関西メディ カル病院	相互連携	
H29.10.5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学 部との連携
H30.1.18	放送大学	単位互換	
H30.1.26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	2018/4/30 日生病院から改 称
H30.4.19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、地 域への社会貢献活動 等
H30.11.1	近畿大学病院	相互連携	
H30.12.3	大阪重粒子センター	相互連携	
R2.9.7	社会医療法人愛仁会	相互連携	大学院看護学専攻 NP コー ス開設に向けての協力
R2.10.5	独立行政法人地域医療機能推進機 構 大阪みなと中央病院	相互連携	学生の救急時の受入
R2.11.30	イカリソース株式会社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての 連携

R2.12.21	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	相互連携	
----------	-----------------------	------	--

R3.6.7	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携 大阪環状線 60 周年を契機とした鉄道事業を通じた協力
R3.8.23	NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪	相互連携	BIODEX 利用を通じた学術データ提供、地域活性化
R4.4.26	西尾レントオール株式会社	相互連携	新型コロナウイルス職域接種の共同実施、熱中症予防に関する共同研究
R4.5.30	医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院	相互連携	
R4.9.16	大阪市	包括連携	市民サービスの構造と大阪市内における地域活性化の推進

II. 実施事業と成果

1. 森ノ宮医療大学

【サマリー】

開学15周年を迎え、本学建学の精神を基盤としたさらなる「質」の向上と「ブランディング」の構築を主眼とし、在校生・保護者・教職員・地域等様々なステークホルダーの満足度を高めるべく教育/研究事業の発展施策に取り組んだ。

附属クリニックとの連携によりCOVID-19による教育・研究活動への影響を最小限とし、地域に根付く医療系大学として社会連携事業・地域貢献事業を積極的に展開した。教職員が協働し、学部再編による教学システムの強化・新学科設置/新校舎建築準備・クリニック開設・教育プログラムのブラッシュアップ・インクルーシブ医科学研究所の活性化・企業連携事業・大阪万博連携事業等を展開した。

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としてのブランディング強化

量的拡大から質的向上への転換を意識しつつ、医療系総合大学としての認知度向上・ブランディング構築を模索した。本年度より、看護学部（看護学科）、総合リハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）、医療技術学部（臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線学科、鍼灸学科）の3学部体制での運営を開始し、教育、研究、社会貢献等で従来の取り組みを更に強化するとともに、新たな取り組みによるブランディングを進めた。

「教育」

教育面での質向上を目指して様々な取り組みを展開した。学部教育では「3学部体制」への移行により、これまでの1学部体制での「チーム医療教育」をさらに発展させた各学部でのIPE教育充実を目指した学科混成の講義等を実施し、患者など「当事者」との関りを経験できる実技等の充実を図った。また、総合リハビリテーション学部と医療技術学部ではワーキンググループを設置し、オープンキャンパスにおける学部特別プログラムの実施、学部広報動画の撮影、アドバンスコース制（仮称）の導入など、積極的な取り組みを実施した。さらに、総合リハビリテーション学部の質向上とリハビリテーション分野での競争力アップを目指し、言語聴覚（ST）学科設置に向けて新棟の建築がスタートしてハード面での強化が進行中で、カリキュラムなどソフト面についても指定規則への適合性に配慮しつつ、3学科混成での教育が実現するようにワーキンググループでの検討を強化してきた。

大学院教育では、保健医療学研究科に4つの専攻（保健医療学専攻〔修士課程〕、医療科学専攻〔博士後期課程〕、看護学専攻〔博士前期課程〕、看護学専攻〔博士後期課程〕）を設置し、本学の教育・研究力の強化と、それによるブランド力の向上を目指している。

「研究」

研究面では、各学部、学科での取り組みに加えて、インクルーシブ医科学研究所を主体に本学の中心的研究テーマを設定して業績発信に努めてきた。その結果、外部資金獲得において、科研費については新規・継続課題併せて34件の採択があり、科研費配分額において全国私立大学の中で2022年度191位（2021年度：207位）となり過去最高の順位となっていた。また、本年度より学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）を創設し、本学の研究推進と情報発信に寄与する研究支援を新たにスタートした

「社会連携」

地域に根付く医療系総合大学として、様々な社会連携事業を積極的に展開した。

- ・ 西尾レントオール株式会社と相互連携協定を締結し、本学内に仮設会場を建設してもらい、3回目の新型コロナワクチン職域接種を共同で行った。また、建設現場の作業員の熱中症対策に関する共同研究をスタートした。
- ・ 医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院と相互連携協定を締結した。
- ・ 大阪市と包括連携協定を締結し、本学学生を含む若者へのHPVワクチン接種や性感染症予防の啓発に協力し、大阪市主催の女性の健康週間イベント「骨活マルシェ」に健康相談ブースを出展した。
- ・ 大阪・関西万博開催までの機運醸成への協力として、「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーに登録。同じくTEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジにも6件登録した。

「大学附属クリニック新設」

令和4年11月1日に「大阪ベイクリニック」を開院した。同クリニックに内科、循環器内科、整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、再生医療、各種検診などの診療科を設置し、医療を通じた地域貢献を加速させ、同時に教育・研究水準の向上、在校生の健康管理一元化推進、教職員の福利厚生を図った。

② 感染症対策

2022年4月、相互連携協定を締結した西尾レントオール株式会社の協力により本学内に設置した仮設会場で、3回目の新型コロナワクチン職域接種を実施した。本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区に所在する企業・団体や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校の学生や教職員を含む、約6900名を対象に行った。学内での感染症対策は、健康管理センターを中心として附属クリニックや関係各所と連携し、社会状況を加味した感染症対策を講じることで、クラスターの発生もなく、学生の学修・課外活動環境を確保出来た。

③ 募集戦略

本年度より新たに入学広報センターを設置することで、広報課と各学部、学科との情報共有の円滑化が更に推進され、毎月定例会議において資料請求者数、WEBサイト、イベント来場者数、入試状況等の情報共有、詳細な分析が可能となった。また、本年度から3学部体制となったことに伴い、オープンキャンパスでは従来の学科プログラムに加えて学部特別プログラムを実施し、各学部の特徴や魅力を外部に発信した。このような取り組みで、3年連続で過去最大の志願者数を更新する6,082名の受験者を確保することが出来

た。さらに2024年度開設予定の言語聴覚学科の広報活動もスタートし、パンフレット作製や専用WEBサイトで外部へ発信した。

④ 入試課の設置と入試制度改革

各課が担当していた入試業務の全てを入試課に集約することで、入試をより専門的に運営できる体制を確立し、本年度より入試運営センターを新たに設置することで、詳細な学内外の入試分析、精度の高い入試制度の検討が可能となり、2024年度入試における出題科目の変更を行った。また、下部組織である作問部会の配置により、入試科目における専門性を有する教員の効果的な人員配置が可能となり、入試問題の質が更に向上した。

⑤ 学生支援サービスの強化

原則は対面授業とし、必要に応じて教育の質が担保されたオンライン授業の併用を実施するなど、COVID-19感染状況の変化に伴い課外活動を含めた学生生活制限を随時見直し、学生の学修・課外活動環境確保に努めた。

就職支援については、可能な限り対面での就職説明会を実施し、就職後のミスマッチが発生しないよう対応した。低学年を対象とした企業による勉強会、S P I適性検査に対応できる受験会や対策講座を実施し、低学年からキャリアデザインの構築が可能となる環境確保に努めた。

また、修学上の困難を抱える学生に対しては、関係する部署が連携して状況把握し、必要な合理的配慮を提供できるシステムの構築を確立した。このような取り組みを充実させることで、学生生活の満足度向上、学修環境の確保に繋がった。

森ノ宮医療学園校友会や森ノ宮医療大学後援会からの支援を受け、就職支援をはじめ就学支援や学費への支援体制の充実を図ることが出来た。

⑥ 各部署の取り組み

【看護学学部】

・看護学科

看護学科において取り組んだ主な事業は、教育の質の向上・教育内容の充実、国家試験対策の強化、教員の研究力向上、大学院看護学専攻の定員確保であった。

教育の質の向上・教育内容の充実については、2022年度より保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴い、新カリキュラムの運用を開始した。文部科学省の大学改革推進等補助金(ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業)において、ICTを利用した授業に取り組み学生の高い満足度が得られた。早期に教育・実習体制を構築するための医療用シミュレーター、DX(デジタルトランスフォーメーション)設備等を活用することにより、今後の新たな医療に対応できる看護職者の養成に資することができると思う。

国家試験対策については、チューターが中心となって担当学生の指導に当たり、模擬試験の成績下位の学生には個別指導を強化した。看護師国家試験、保健師国家試験ともに100%の合格率であった。看護師国家試験合格率100%は6年連続となり、学修姿勢が確立してきたと考える。

教員の研究力向上については、看護学科研究支援部会の企画により、教員の研究に関するニーズに応え、FD 研修会を2回開催した。査読付き論文採択数7編、科研費申請11件、新規採択2件、継続課題8件であり、実績が向上している。

大学院看護学専攻の定員確保については、2022年度の入学者は看護学専攻博士後期課程2名、博士前期課程NPコース6名であった。2023年度は博士前期課程修士論文コース1名、NPコース6名、博士後期課程1名が入学予定である。今後はNPコースの募集停止に伴う博士前期課程修士論文コースの受験者確保に向けて、教員、広報課とともに積極的に募集活動を行う必要がある。

【総合リハビリテーション学部】

2022年4月より総合リハビリテーション学部が理学療法学科と作業療法学科の2学科体制で開設された。加えて、2024年4月より言語聴覚学科（仮称）も開設予定である。2022年度は、1学部体制から3学部体制に移行することによる、総合リハビリテーション学部としての魅力の構築と発信を実施した。総合リハビリテーション学部プロジェクトチームを立ち上げ、2022年6月のオープンキャンパスにて学部特別プログラムを実施し、障がいをお持ちの当事者の方と学生スタッフとのやり取りの中でリハビリテーションの魅力伝え、受験生や保護者にもスマートフォンを利用した質疑応答を通じて参加して頂き好評を得た。また、言語聴覚学科開設後を見据えた3学科合同のカリキュラム構成について、学部プロジェクトチームで検討を進めている。さらに、2024年度入学者を対象としたパンフレットと大学ホームページの刷新についても、学部の魅力を発信できるよう学部ページの内容について検討を重ねた。これらの取り組みにより、総合リハビリテーション学部の知名度を向上するとともに、大学のブランド力アップに貢献した。このような取り組みを進める中で、2023年度入学試験では2022年度入学試験と比較して、入学者に占めるEランク以上の学生比率が理学療法学科で59%→70%、作業療法学科で47%→55%と上位層の比率が高まる結果となっていた。今後も質の高い学生の入学志望を高める取り組みを通じて、本学のブランド力向上への貢献を目指していく。

・理学療法学科

- 1, 2022年度国家試験において現役生は98.6%の合格を達成した。昨年度は98.4%であったため、改善はしたが100%の目標に到達しなかった。
- 2, 2022年度の13期生の4年間卒業率については94.3%となり、昨年度の85.7%よりも改善し、目標とした95%に僅かに届かなかったものの、本学科では過去最高の結果であった。
- 3, 第一志望就職率は80.0%と昨年度の67.2%よりも改善した。
- 4, 学生満足度調査において、在校生推奨度は前年68.5%よりやや低下し67.5%であり目標の75%には届かなかった。
- 5, 入学偏差値は昨年度と変わらず55で競合校との差を詰めることはできなかった。アドミッションにおいては、一定数の高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も実施し、学科志望者数は昨年ベースを獲得できた。

6, 臨床マインドを高める教育として、対面での実技授業を概ね円滑に進めることができた。OSCE をブラッシュアップしながら実施し、実習前後教育の質を向上して臨床教育の充実を図ることができ、臨床実習での不合格者は出なかった。

7, また学外実習指導者を養成するための指導者講習会を WEB を利用し開催できた。

8, 学科独自の追求として、新学部開始にあたっての広報動画作成、コース制などの新カリキュラム検討、教職などのワーキンググループを作業療法学科と協調し開始することができた。

9, 2023年度科研の新規採択は 1 件、継続5件であり、また論文本数は8本であった。

10, 卒後教育センターと協同して、森ノ宮医療大学学術大会の大会長、運営を実施し卒業生の参加を促すことができた。

・作業療法学科

2022 年度の学科の主な取り組みは、前年度に引き続き、国家試験対策の維持・強化と きめ細やかな学生教育・学習支援である。

2022 年度の第 58 回国家試験は 3 年連続で 100%合格を達成できた。2021 年度から立ち上げた国家試験対策委員会を中心にして定期的に国家試験対策についてのアップデートを重ね、3 年後期の春休み期間中から開始する国家試験短期集中講座（国試塾）やアクティブラーニングを中心としたグループワークによる基礎学力の向上、あるいは各種業者模試の導入と適宜実施する学生への個別指導、国家試験直前の集中対策講座や教員とのペア学習など、これまで3 年間積みあげてきたメソッドが確立されたものとなったのではないかと考えている。ちなみに、全国の大学で3年連続 国家試験合格率100% は本学を含めて2校のみであり、非常に高水準であることが伺える。

就職に関しては、キャリアセンターとの連携および教員の就職指導により、就職率 100%を達成し、第1希望就職率 88.4%となり、臨床実習施設への就職率は 72.1%と、かなりの高確率で第1志望および臨床実習施設への就職ができている。

学生に対するきめ細やかな学習支援としては、i)入学前教育（コロナ禍のため課題のみ）、ii)1年次からの基礎医学補講（担任担当）、iii)4年間継続した模試の実施（3科目模試・国試過去問）、iv)当事者ゲストスピーカー参加型授業、v)実習前や授業内において客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination : OSCE）の導入・ルーブリック評価の実施、vi)臨床実習（CCS方式）・コロナ感染拡大に伴う学内実習の実施・臨床実習指導者研修・オンラインSV会議&研修、vii)校友会主催の卒後教育研修実施（オンライン）・森ノ宮医療大学学術大会における卒業生対象の研修会実施、viii)実習・社会貢献・研究支援などに関して、ワーキンググループなども立ち上げ、積極的に行った。授業においても、新型コロナウイルス感染等による出席停止学生に対し Teams/Zoom/MORIPAを活用し、教員一丸となって学生への教育支援に取り組んだ。演習や実習では感染対策を十分配慮し、三密を避け、健康管理表チェックなど確認を行った。

アドミッションにおいては、可能な限り高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も毎回テーマを工夫し、国家試験合格者を前面にアピールするなどの工夫を行い、学科志願者数の増員に努め、昨年の111名から 131 名（延べ人数）と大きな増加に繋がった。

【医療技術学部】

2022年4月より医療技術学部が臨床検査学科、臨床工学科、診療放射線科、鍼灸学科の4学科体制で開設された。開設初年度は学部としての魅力の構築と発信に重点を置き、6月のオープンキャンパスでは広報と協働して学部3学科特別プログラムを実施し、臨床検査学科・臨床工学科・診療放射線科はどの学科でも同じフィールドで活躍出来ることを発信し、募集力の強化に繋げた。また、学科を横断して学べるエクシードゼミの来年度開始を予定している。

2024年度入学者を対象としたパンフレットに学部ページを新たに作成し、大学ホームページも学部で閲覧可能とすることにより、学部の知名度向上、ブランディング構築に貢献した。今後も学科単独・学科横断型の新規教育プログラムの構築、広報との協働など積極的に展開することで、教育の質の向上、募集力の強化、ブランディング構築を目指す。

・臨床検査学科

2022年度の臨床検査学科は、①国家試験合格率の向上、②臨床検査学科志願者の確保、③臨床検査技師に関する法律改正に伴う臨地実習の見直しを重要課題としてきた。

①国家試験合格率の向上

国家試験対策としては、3年生後期の基礎学力の向上、国家試験2か月前から成績下位者への集中講義を強化し、国家試験対策スケジュールに沿うシステム化された対策を行ってきた。結果、合格率100%におよばなかったが、2022年度新卒者は全国平均89.5%を上回る96.4%と高い国家試験合格率になった。2023年度は若手の学科教員も加わり、学生の学力に応じた指導の強化、1年次から国家試験を見据えた授業を行い、国家試験合格率100%を目指したい。特に、4年次後半は学生を少人数グループに分けた指導で苦手領域の克服に努めた。

②臨床検査学科志願者の確保

臨床検査学科第一志望者数は2019年度354名、2020年度288名、2021年度502名と増加してきた。しかし、2022年度は433名と減少に転じた。今後は、医療技術学部の診療放射線学科、臨床工学科と連携を取り、入試課・広報課の協力のもとに医療技術の認知度向上と必要性をアピールし、医療技術学部内の第2・第3入学志願者を増やすことで入学志願者増加と学力の高い学生の獲得を目指す。

在学中にさらなる知識の向上と専門職資格を習得できる細胞検査士資格取得コースが3年目になった。今年度から学内実習がはじまり、最終学年の細胞検査士試験受験に向けての準備が整った。

③臨床検査技師に関する法律改正に伴う臨地実習の見直し

臨地実習受け入れ施設は64医療機関となり、関西一の実習施設と提携している、その4割は地域医療の中核を担う500床以上の基幹病院である。学生には先端医療を経験、臨床検査技師としての専門的知識・技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えている。

就職に関しても学生支援課と協働し、2022年度国家試験合格者の医療機関への就職率は98%と高い結果になった。

・臨床工学科

臨床工学科では、2022年度「国家試験合格率 100%」、「4年卒業率 95%以上」を目指し、①知的能力の向上による人間力の向上、②学習習慣の確立と日常の自己管理、③ティーチングメソッドの開発、④学生確保の取組、⑤教員の研究活動と研修の充実といった5つの課題を設定した。

2022年度は21年度の弱点であった学生への勉強指導アプローチが各教員の時間を確保し徹底的に実施できた。また、学内模試の回数増とフィードバックによる学生理解度向上にも繋がった。コロナ禍において1～3年生ではチーム医療見学実習、早期病院見学実習、解剖見学実習といった行事が中止された。モチベーション維持に苦勞した学年では休学・退学もあったが、教員一丸となり春休みを利用した学内模擬病院実習を実施し低学年層の臨床工学技士になりたい意欲や、興味を引き出せたことは評価できる。

学生確保の取組については、サマースクールやひらめきときめきサイエンスといった従来から実施してきたイベントを実施でき、臨床工学技士への注目度が高まることを期待するとともに、広報課と協同し、本学科の周知を図りたいと考えている。

今年度も引き続き「国家試験合格率 100%」を達成するために、学生個々の知的小よび技術力の要素を高めることに注力したいと考えている。

2022年度、国家試験合格率は100%（全国平均：85.4%）、就職率は95%（4月10日時点）と高い結果であった。

教員研究では、科研費1名、ひらめきときめきサイエンス1名の採択となった。

・診療放射線学科

診療放射線学科は開設3年目で、担任・チューター・業研究指導教員が面談と個別指導を重ねている。また本学科の取り組みを理解、共有してもらうため、学内実習、臨床実習、国試対策、卒業研究等の情報を記載した「学科だより」を年2回発行（今年度よりMORIPAで配信）とともに「保護者懇談会」を通して保護者と連携を深めた。

授業の理解を深めるために、1年生には、数学・物理・化学および放射線科学に関連した科目、2年生は「診療画像技術」の理解を深めるプログラムを中心に学修支援センター員と協力して「ステップアップ講座」を実施している。

国家試験に向け、1年生には「ステップアップ講座」による基礎学力の向上を、2年生には模擬試験を実施し、知識の確認と国家試験への意識を高めた。さらに3年生には、学科の模擬試験を2回、全国統一模擬試験を2回実施し、身体的・精神的な持久力を鍛えるとともに臨床実習へ向けて知識習得を確認した。

2年前期～3年後期に実施する学内実習科目に関し、実習内容の充実を図るとともに、不正なコピー&ペースト、剽窃、AIによるレポート課題作成などの問題に対して、レポートの意義や重要性を認識してもらう文章をシラバスに明記するとともに、学科教員間で認識を共有しガイダンスやレポート指導を行っている。

3年生には、前期より臨床実習ゼミナールを開講し、臨床実習への意識向上を図り、後期には臨床技能教育を実施した。一方、初めての臨床実習のため「臨床実習要綱」を作成し、事前共有と関係性構築を目的として実習施設への訪問を重るとともに、12月にはWeb

にて実習指導者会議を実施（29施設参加）した。そして1月より32施設に臨床実習Ⅰ・Ⅱを受け入れていただき、コロナ渦でも全員40日間の実習を無事に終了することが出来た。また、2023年度5月に10日間の臨床実習Ⅲが予定されている。

学生の学習意欲の向上とチーム学習の推進を図るため、国家資格である「第1種放射線取扱主任者」の資格取得ゼミを開催している。社会人でも超難関な試験に3年生2名の合格者を出すことが出来た。後期より次年度合格者倍増を目指し、1年生を加えサポートを継続中である。

研究活動の推進のため、学科内研修会を定期的（通算25回）に開催し、学科内連携、他学科連携及び他施設連携を視野に研究体制と環境の整備、および課題の創出に取り組んでいる。

「森ノ宮医療大学医療技術学部診療放射線学科」および「診療放射線技師」の知名度向上と志願者増加を目指し、「オープンキャンパス」、「中学生サマーセミナー」、「医療の学び仕事セミナー」等の体験型イベントを実施した。また、教員の研究テーマ・これまでの業績・学会活動等の発信を継続している。さらに社会貢献として保有の設備・機器の発信と、外部利用を推進し、企業研修：1件、学会の講習会：1件の実習施設利用、および機構の認定試験：1件による教室利用があった。

・鍼灸学科

学生募集の結果、2023年度の新入生は64名（第一志望者48名）となり、入学定員を満たすことができたが、前年度と比較して第一志望者が減少する結果となった。今年度は、広報担当者とも協力し、オープンキャンパスへの来場者を増やすこと、そして来場した学生個々の希望進路に合わせるように内容を工夫したい。また、教職志願者（12名）も減少しており、学科として志願者増に努めたい。

国家試験の現役合格状況は、はり師47/51（92.2%）、きゅう師48/51名（94.1%）で全国平均（はり師：大学85.52%、きゅう師：大学85.9%）を上回った。国家試験対策委員の日頃の努力の結果、目標の100%達成に近づいている。しかしながら、今回不合格であった学生は、学内模試の結果では合格基準に達しており、直前（2月）の勉強への取り組み姿勢に問題があったと考えられ、国家試験合格率100%を目指すために、モチベーションの維持は改善すべき課題である。

本年度も都道府県の教員採用試験に既卒生2名が合格した（2名とも大阪市中学校：支援学級）。この結果、スポーツ特修コース開設以来（2012年～）、合計14名の学生が教員採用試験に合格し、教壇に立っている。今後は、合格者を増やすこと、そして再び現役合格者を出すことができるように取り組んでいきたい。

学科教員査読付き論文は和文2編、英文4編で、筆頭著者は5名であった。今後も、他学科・学部とも連携し、さらに研究活動を活性化したい。

【大学院保健医療学研究科】

1) 学生募集

2023年度入試において保健医療学専攻修士課程9名、医療科学専攻博士後期課程1名、看護学専攻博士前期課程論文コース1名・NPコース6名、看護学専攻博士後期課程1名の

入学予定者を確保した。また、保健医療学専攻修士課程 2 年の 1 名が休学、同 2 年の 1 名が留年した。これにより 2023 年度の在籍院生は保健医療学専攻修士課程 15 名、医療科学専攻博士後期課程 6 名、看護学専攻博士前期課程 13 名、看護学専攻博士後期課程 3 名となる予定。

2) 授業関連

COVID-19 感染拡大状況を見ながら適宜オンラインと対面の混合で授業を実施した。一部の院生に学位論文のための被験者募集等に影響が生じたが、指導教員による個別の対応により結果的にはおおむね予定通りの授業と研究指導が遂行できた。

3) 学位授与

保健医療学専攻において 8 名の修士（保健医療学）、医療科学専攻において 1 名の博士（医療科学）、看護学専攻において 2 名の修士（看護学）の学位を授与した。

4) 看護学専攻博士後期課程および博士前期課程 NP コースの学習環境整備

2022 年度から看護学専攻博士後期課程 2 名を受け入れ、文科省提出書類に沿った教育研究活動を開始した。NP コースについては高槻キャンパスを設置し、6 名を受け入れて授業を開始した。なお、NP コースについては 2024 年度募集から停止することとなった。

5) 学術セミナーの開催

2022 年度からインクルーシブ医科学研究所との共催とし、年度内に 11 回開催した。うち 10 回の講師は本学教員であり、1 回（第 115 回）は日本における診療看護師（NP）の現状と将来についてのシンポジウムを本学と社会医療法人愛仁会との共同で実施した。

【助産学専攻科】

2022 年度においては、まだコロナ禍が続いており、事業目標を 1) コロナ禍での助産教育の質の担保を重要課題とした。2) 国家試験100%合格、3) 内部受験生の退学を減らす、4) 一般入試受験生の受験率のアップを目指した。さらに 5) 教育備品の充実、6) 実習施設の開拓を掲げた。

1) コロナ禍での助産教育の質の担保においては、感染予防に留意のもと、可能な範囲で対面での講義や演習を行うことができた。コロナ感染拡大で実習時間制限された中で、個人クリニックのおかげで他校に比して指定規則の介助数が達成できたと考えている。しかし、助産ケアに関してはどうしても妊産褥婦、家族新生児と接する時間が短く、実習経験の不足から卒業時の到達目標には届いていないのが現状である。2023年度からコロナ感染分類が5類となり、通常分娩介助や助産ケアに戻れると期待している。

2) については専攻科開設以来国家試験合格が100%を達成できており、2023年度も気を抜くことなく模試など進めていく。3) 内部受験生の退学については、2022年度も二人退学した。成績が伴わず、助産が厳しく精神的にもついていけないという理由が主であることは、入学の時点で何とかならなかったかと残念に思う。しかし、入学した以上は、教員としてフォローをする責任もあるので、教員も今後の対策をさらに検討するとともに、卒業時の学生の質の向上につなげるべく努力していく。5) 教育備品の充実については、備品の整備が年度ごとになされ、充実に向けて進んでいる。コロナ禍で卒業時の到達度を達成するためには学内の演習で教育効果を上げることが重要であり、リアルモデル等の設備も必要であり、シミュレーション教育が必須である。上層部の配慮の

もと、毎年機器等の整備を進めているところである。

6) の実習施設の開拓については、2024年度から明和病院にお願いできることになった。多額も実習に来ており、どの時期に実習依頼ができるかが課題ではあるが、長期で頼むことができれば、卒業時の到達目標の向上につながると考えられる。教員の課題として助産学専攻科は1年課程であり、前期は講義・演習に多忙であり、7月からは夏休みなく実習に突入する忙しい1年となる。教員として研究を進めることや社会への貢献も重要であるため、科研申請や社会活動にも目を向けることで、教員のブランディングも目指していく。卒業生が、森ノ宮医療大学助産学専攻科を出たことを誇れるように、優秀な助産師の排出を目指し教員も教育の質を上げるべく努力していく所存である。

【研究支援センター】

本学の研究支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

・科研費等外部資金獲得支援について

科研費等の外部資金獲得支援として、URAによる科研費添削サービスの利用を行った。前年度に学長の許可を得てサービスを利用した課題が採択された実績があったため、試行としてインクルーシブ医科学研究所の研究を対象として計5課題が利用した。

・学長奨励研究プロジェクト「学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）」による支援

2022年度より「学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）」の公募を実施した。これは効率的なチーム研究体制や学科横断・領域横断的なチーム研究による革新的な研究課題に対して審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うもので新規に支援を行った。2022年度は下記研究者へ贈呈した。

学長奨励研究費（発展的研究体制構築型）

研究代表者：工藤 慎太郎 教授（インクルーシブ医科学研究所）

共同研究者：川畑 浩久、山口 功、垣本 晃宏、堤 真大、宮下 敏紀、河西 謙吾、池津 真大

テーマ：健康長寿を目指した変形性膝関節症に対する予防理学療法の開発

－発症メカニズム解明と治療から予防へのAIシステム構築に向けて－

また、学長推進研究支援事業としては、下記取り組みを継続して行った。

・学長推進研究支援事業 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるようにした。

・学長賞（優秀論文賞）による表彰

研究活動の促進、研究発表論文投稿の奨励、ならびに優れた論文を広く社会に公表することで本学の学術研究の振興を図ることを目的として、優秀論文発表者に対して学長賞（優秀論文賞）を授与する制度を設けている。受賞者については学内のみならず本学

ホームページにおいても公表し、本学研究者の研究意欲の向上を目指している。森ノ宮医療大学 第6回 学長賞については下記研究者に対し表彰した。

森ノ宮医療大学 第6回 学長賞

関根 将 講師（臨床検査学科）

Sho Sekine. Pre-graduate Teaching of Human Parasitology for Medical Laboratory Technologist Programs in Japan. Humanities & Social Sciences Communications. 2022.

大川 祐世 助教（鍼灸学科）

Yuse Okawa, Hitoshi Yamashita, Shoko Masuyama, Yohji Fukazawa, Ikuro Wakayama. Quality Assessment of Japanese Clinical Practice Guidelines Including Recommendations for Acupuncture. Integrative Medicine Research. 2022.

- ・学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト（研究基盤構築型）」による支援

「学長奨励研究費（研究基盤構築型）」は科研費（若手研究・基盤研究種目）において残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。2022年度は下記研究者へ贈呈した。

学長奨励研究プロジェクト（研究基盤構築型）

藤江 建朗 准教授（臨床工学科）

テーマ：心臓自律神経系活動の指標を利用した睡眠状態推定の研究

- ・研究員等への科研費応募資格（特定応募資格）の付与

本学の優秀な研究員等に対して一定の条件のもと科研費応募資格（特定応募資格）を付与することで、本学の科研費への応募促進ならびに獲得件数の増加に繋げることを目的とする制度を設けている。本制度を利用して優秀な研究員等より申請があり、審査を経て応募資格の付与を行った。

- ・インクルーシブ医科学研究所の運営に関する支援

セミナーの開催やインクルーシブ医科学研究所の会議等の事務的支援を行った。

さらに、その他の支援体制については下記のとおりである。

- ・文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドラインならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築、啓発ポスター掲示や大学経営・質保証会議（役員・事務局管理職対象）での不正事案の共有等を行った。また2023年1月を研究費コンプライアンス強化月間と定め、学内グループウェア（デスクネッツ）により他大学の不正事案や科研費の適正な使用に関する注意事項等を毎週配信することで、教職員の意識改革を目指した。
- ・APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施（研究不正の防止）
- ・研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施（研究費不正の防止）
- ・内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援

- ・ 科研費・厚労科研・AMED等外部資金研究費の応募・申請支援（研究計画調書の事務的確認・支援、交付申請・委託研究契約手続き等の実施、その他応募支援）
- ・ 学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊
- ・ ひらめき☆ときめきサイエンスの実施における事務的支援

【インクルーシブ医科学研究所】

設立 3 年目となり、1 年目から取り組んできた科研費獲得および、研究論文数の増加が結実し始めた。具体的には 2021 年には 36 件であった英語論文は、2022年には59件と大幅な飛躍を見せ、過去最多を更新している。

本学第 2 期中期経営計画の中核施策の一つである「研究の森」づくりプロジェクトと順調に進んでいる。研究成果の外部発信として、2021年度末に立ち上げたホームページを利用し、掲載された論文の動画での紹介などの新たな取り組みを行った。

次に、発信する研究成果のピックアップおよび学内研究者間のコラボレーションと研究推進を目的に研究所セミナーを実施し、具体的な成果を上げている研究者から成果報告の場を形成した。

また『健康長寿社会の実現』というインクルーシブ医科学研究所の研究テーマを掲げて、より基幹となる研究を発展させるための仕組み作りに着手した。

【健康管理センター】

本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区に所在する企業・団体や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校の学生や教職員を含む、約 6900 名を対象に新型コロナワクチン職域接種を実施した。新型コロナ感染症対策は、社会状況を加味しつつ適宜アレンジすることで、学内でクラスターを発生することなく、安全と教育の両立を確保した。また、臨地実習において必要時は PCR 検査を行い、予防接種指導や健康診断など、コロナ禍においても臨地実習の書類提出に支障が出ないように対応した。

健康増進関連事項：

- ・ 禁煙宣言の遂行（敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導禁煙サポート・入学時に誓約書の提出）

健康管理関連事項：

- ・ 効率的な健康診断実施のための学校保健法に準じた検査項目見直しと経費削減
- ・ 新型コロナ感染症予防対策の実施（感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、学科、教務課、学生支援課との密な連携による感染症発症者の抽出・確認・帰宅指示の運用、学生相談受付、登校制限・解除基準の更新と運用、感染症拡大防止に関する啓発活動、唾液 PCR 検査の実施）
- ・ 新型コロナワクチン接種（職域接種）運営
- ・ 医務室業務の充実
- ・ 大阪ベイクリニックと連携し、学生急病対応、各種予防接種等で連携
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による医療サービスの拡充
- ・ Will 申請業務の速やかな実施

臨地実習関連事項：

- ・ 臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・ 感染症予防対策に関する全学ルールの統一（日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール）~~を~~これに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成
- ・ 大阪ベイクリニックと連携し、実習前検診を実施
- ・ 必要時 PCR 検査施行

メンタルヘルスケア：

- ・ 心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による匿名相談窓口の拡充
- ・ 外部のハラスメント相談サービス（T-PEC）導入準備（2020年4月開始）
- ・ MORIカフェ会開催、医務室放課後開放など何でも相談しやすい環境づくり
- ・ 休学者支援

【学修支援センター】

学修支援センターは、本学学修支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

- ・ 学科間交流イベントの開催

学修支援センターを中心に低年次からの学科間交流イベントを開催し、多職種協働学修の一助となった。

また、既存事業においても入学前学習コンテンツについて、提供業者の見直しや申込者への補助金出資などの施策により、対象者の8割超が受講するようになるなど、大幅な受講者数増加を達成した。

さらに、従来から実施されている以下の施策を継続し、入学から国家試験合格、卒業までの一貫した学修支援を行った。

入学前学修支援：

- ・ 入学前学修コンテンツの提供

生学修支援：

- ・ 入学時プレイスメントテストの実施
- ・ リメディアル科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ 基礎医学科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ 専門科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ SPI 対策講座の実施
- ・ オンデマンドコンテンツ配信（YouTube, Stream）の運営
- ・ 卒業生を登用したメンター制度（＝センターアシスタント）の運営
- ・ 関連資格取得（ME2種、放射線取扱主任者、医療情報技師、等）サポート
- ・ 国家試験対策サポート
- ・ ICT 活用サポート

【キャリアセンター】

キャリアセンターは、教職協働による学生の臨地・臨床実習および就職・進路に関する支援策の立案実施や情報共有を目的としている。今年度も学科毎の就職支援状況や臨地臨床実習の受け入れ状況などを共有し、会議以外においても学科から要望があれば全学科へ情報収集と共有を行った。実習施設への就職率向上を目的とした「内定者による報告会」には、昨年度を上回る3学科から協力を得た。また他職種を知るために全学科学生の出席を認めている「キャリアアップセミナー」では、一般社団法人大阪府臨床工学技士会の会長小北克也氏に講演いただいた。今年度、学生支援課にて検討を重ねてきた就職ポートフォリオについては、次年度キャリアセンター協力の元、キャリア支援課にてシステム構築を進めていく。

【入学広報センター】

入学広報センターは、学生募集に係る企画立案、運営を担う、教職協働の組織である。2022年度の活動としては、オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの実施、広報ツール（パンフレットやWEBサイト・動画）の制作、高校へ出張講義等を行った。また、センター会議を毎月1回開催し、広報や入試に関する状況把握、データ分析を共有しているほか、入試運営センターと共同で全教職員向けのFSDセミナーも開催した。

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等

教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、令和4年度は次の取組を行った。

各種ガイダンスの実施：

- ・教育実習内諾に関するガイダンス
- ・教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・教員免許一括申請に関するガイダンス教員採用試験対策：
- ・専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・教員採用試験受験者へのサポート並びに受験指導
- ・卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・教員採用試験対策に関する図書の貸出し学校現場・子ども交流体験の実施
- ・学校ボランティア（中学校に8名、小学校に7名が参加）
- ・発達障害児童生徒との交流会（体育館で実施 参加者のべ16名）

学生サポート

- ・学習面や進路等について学生との面談・相談を実施教職事務の集約化:
- ・教育実習、介護等体験に関する業務
- ・教員免許申請に関する業務
- ・教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・教員採用試験、教員採用に関する業務

<令和4年度 教職免許状取得実績>

- ・教職免許状取得者数[教科：保健体育] 15名
 - ・教職免許状取得者数[教科：養護教諭] 5名
- <令和4年度 教員採用試験合格者実績（卒業生含む）>
- ・教員採用試験合格者数：2名（2名とも卒業生）

【卒後教育センター】

医療専門職の養成校として、生涯学習の継続を支援することは重要な課題であるため、2015年から卒後教育センターを開設し、卒業生の医療者としての育成に取り組んでいる。

2022年度の活動について、下記の事業について取り組んだ。

1. 第7回森ノ宮医療大学学術大会

2022年10月30日（日）参加者428名（卒業生、関連施設職員、在校生、教員等）

1) 演題発表

- ・58演題（査読あり）すべてポスター発表
- ・表彰演題：最優秀演題1題 優秀演題3題を選出し表彰式を行った。

2) 特別講演：「高齢者の栄養評価と治療について」

3) 森ノ宮医療大学校友会共催シンポジウム

- ・シンポジウム1：「医療現場における最新 ICT 技術」
- ・シンポジウム2：「COVID 19 との戦い」～最前線で立ち向かう医療技術者たち～

4) 大学特別企画：知の祭典 MORINOMIYA SQUEEZE

- ・7学科の学生を対象とした、学年別に team 編成し、トーナメント形式によるクイズ大会を開催。
- ・問題は、解剖学、生理学（共通の本を事前配布）および、学生手帳から出題

2. RUSI（Rehabilitative Ultrasound Imaging workshop）の開催

- ・7月2日・3日 下肢編 45名
- ・9月17日・18日 上肢・体幹編 40名

3. 卒後教育セミナーの開催

- ・7月10日 臨工×理学 お互いに知ってほしい知識・技術 21名
- ・12月3日 作業療法アップデート研修会

21名

- ・1月8日 超音波検査士取得を目指す人のための腹部超音波症例勉強会 7名
- ・3月26日 変形性膝関節症の保存療法 Up date 54名

4. BP の開催

- ・運動器理学療法アップデート講座 7名
- ・臨床工学周術期管理アップデート講座 4名

コロナ禍により、予定していた企画がすべて実施できない状態であったが、今後計画した内容について、実施していく予定。

【地域連携センター】

地域連携センターは、本学における教育研究活動と地域社会をつなぐことにより、本学の地域貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として設置された教職協働の組織である。

令和4年度は、前年度と比較すると新型コロナウイルス流行も落ち着き、太陽の町地域での健康相談「まちの保健室」は概ね予定通り実施できた。5月に実施した際には、看護学科主催の「もりもりひろば」と併せてケーブルテレビのベイコミュニケーションズから取材を受けた。太陽の町地域においては、来年度からの新たな取り組みとして学生主体で介護予防・認知症予防・地域交流を目的として、体操や脳トレ、健康相談を行う講座を実施する予定である。

【共通教育センター】

共通教育センターは学生が共通して学ぶ教養教育の充実を図ることを目的として設置された教職協働の組織である。令和4年度の活動として、学修支援センターと協力してリメディアル教育（ステップアップ講座）や国家試験対策の実施、国際交流センター事業である「森ノ宮医療大学英語教育プログラム（MEEP）」のTOEIC対策における集中講座の実施を行った。

また、共通教育センター会議では、次年度の教養科目、専門基礎科目の科目担当者の見直し、確認を行った。

【鍼灸情報センター】

鍼灸情報センターは、鍼灸に関する学術情報を主として収集し、内容を吟味した上でWeb および SNS で社会に向けて発信する活動を行ってきた。戦略的には鍼灸学术界でのリーダーシップの確保、鍼灸業界の信頼の獲得、および本学鍼灸学科に対する保護者や高校教員の認知度と信頼度の向上という意味合いがあった。

2022 年度中に Facebook のフォロワーが約100人増加して1209人となり、Twitterのフォロワーが約80人増加して736人となった。また、2022 年10 月にはインフルエンサーとされるマーケティング分析コンサルタントが発信し視聴が 8 万回を超えたYouTube動画で当センターホームページの画像がセンター名とともに引用された。また、業界で有名な鍼灸柔整新聞において山下センター長の記事が 2 回掲載された。これらにより間接的に本学鍼灸学科の社会的認知と募集力アップに貢献した。

【入試運営センター】

2022年度より入試に関して専門的に協議・検討する、入試運営センターを設置し、入試において、より正確かつ公正な入試運営ができるよう協議・検討できる体制を構築すると同時に、あらゆる入試データの分析を行い、今後の入試制度に繋がる取り組みを行った。

また、当センターには下部組織として入試の作問・点検を専門的に担当する、入試作問部会を設置し、入試問題の精度強化を行った。

【国際交流センター】

国際交流センターは、グローバル化する現代において学生たちの国際的な視野を広げ、学びを深めることを目的とした教職協働組織である。MEEP（Morinomiya English Education Program）では、正課授業の英語科目はもちろん、TOEIC講座の実施、TOEIC I Pテストを学内で年2回（3月と9月）に実施している。また、2019年度末から始まったコロナ禍の影響で、海外研修が中止になったことから、無料オンライン英会話を開講し、海外に行くことが出来ない状況でも英語を発する機会を確保するよう努めた。2022年度は新型コロナウイルスの流行が落ち着きを見せたため、オーストラリアメルボルンにある La Trobe Universityへの海外研修の実施し、12名の学生が参加した。来年度は本学が連携協定を締結している韓国Sahmyook Universityの学生が本学を訪れ、附属クリニックの見学や学生交流を行う予定である。

【校友センター】

校友センターは2022年度4月に新設され、森ノ宮医療学園校友会大学部会の事業計画・運営、予算管理、新規事業立案、校友会本部との連携に関する業務等を業務分掌規程として定めた。

2022年度の事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しながら遂行した。具体的に実施できたのは、2022年10月の森ノ宮医療大学学術大会の後援、及び同日のホームカミングデーの企画・運営、2023年2月の理学療法部会主催講習会（兼3学会合同呼吸療法認定士の認定更新用の講習会）、2023年3月の作業療法部会主催講習会であった。ホームカミングデーはコロナ禍前に行われていた交流会の代替であったが、その交流会を凌ぐ140名超の卒業生に参加していただくことができた。

予算管理については、校友会本部との調整会議を重ねた結果、これまでよりも大きな比率で予算を配分していただけることとなった。また、詳細な項目についても統合や廃止等の調整を行い、これまでよりも柔軟な運用を可能とした。

その他、これまでは学科・学年ごとに異なっていた卒業生への情報発信ツールについて検討し、LINE公式アカウント（認証済みアカウント）への一元化を図ることとした。これについては、校友会予算を用いて2022年度中に試験運用を開始しており、2023年度以降は校友センター予算で運用することとなっている。

【総務課】

総務課では、本学が2022年度に開学15周年を迎えるにあたり、15周年記念事業の策定、取りまとめを行った。総務課としても大学沿革パネルの作成、メディカフェ、さくらカフェと提携した記念メニューの販売企画などを行うとともに、学生、教職員などステークホルダーから「大学マスコットキャラクター」公募を行い、投票および学内会議を経て「もりのん」「めでいぐるう」を選定した。またこれらの本学マスコットキャラクターの浸透を図るため、「オリジナルグッズ」の企画立案、在学生や教職員を対象とした配布や売店での販売を行った。一方で2022年度も前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、連携協定を締結しているセ

レッツ大阪の協力のもと、ヨドコウ桜スタジアムで入学式を実施した。

施設設備の面では2022年秋に開業した「森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック」の建物に関する施工管理、および医療機器、備品購入管理、さらに2022年4月から運用開始された「部室棟」（パスレルポート）の施設管理を開始したほか、建物群全体の設備改修、学修環境の整備、東条湖セミナーハウスオープン準備などを行った。

【情報システム課】

情報システム課では、2020年度に立ち上げたWEB活用推進プロジェクト：「green innovation」を引き続き推進、ホームページから情報設備やMORIパソ等の最新情報を発信しBYOD推進から必携化に向けての基盤作りを進めている。

また学務システム「MORIPA」の新機能である「保護者WEB掲示板」を2023年度から活用すべく準備を進めた。また総務課と連携し「学生・保護者保証人住所等変更手続きのオンライン化」を開始、申請Web化による学生サービスの向上を図った。

教職員向けサービスにおいては利便性向上を目的とした学外から学内ファイルサーバーへWeb経由でアクセス可能な環境を構築、2023年度からの運用を予定している。

また、システム運用に関して主要なサーバーを仮想環境で構築し管理の一元化、運用負担の軽減を図った。

【教務課】

2022年度に新たに開設された新学部、看護学専攻博士前期課程（NPコース）、看護学専攻博士後期課程について既存学部等と同様に教育・学修環境の整備を行い、円滑に授業運営が行えるように業務に従事した。また、2023年度より学生支援課から実習および国家試験に関する業務が移管されることとなり、教務課内の業務分担の見直しや新たな体制に向けての準備を行った。本格的にチーム医療教育をカリキュラムに反映させてから3年が経過したこともあり、「MBS(Morinomiya Basic Seminar)」、「チーム医療見学実習」、「チーム医療論」、「IPW論」について、ワーキングチームと協働し、シラバスや実施方法等について見直しを行い、2023年度より新たな内容で実施できるように準備を行った。今後も本学の特徴であり強みでもあるチーム医療教育については教職協働で点検・評価・運用を推し進めて行く。

【学生支援課】

①就職

休日のカウンセリング（履歴書添削・模擬面接）を継続し、学生のスムーズな就職活動を支援した。就職説明会には引き続きキャリアタスCMSシステムを使用し、運営する際の学科および学生支援課の業務負担を軽減した。今後、特に医療技術学部では一般企業受験者の増加が見込まれることから、前期にも新たにSPI対策講座（全10回27単元）を開講し年間を通じて就活準備ができるよう体制を整えた。

②奨学金

2020年度より国の修学支援制度がスタートし、奨学金利用希望者ならびに利用者が増加していることから、困窮している学生への対応について会計課と連携できるような体制を整えた。

- ・貸与型奨学金（第一種・第二種もしくは併用対象者984名
- ・修学支援制度給付・授業料減免対象者307名（いずれも2022年8月末時点）

③学生会

学生会本部と各委員会（クラス委員会、部・公認サークル運営委員会、大学祭実行委員会）の連携を目的として学生会組織を再編した。また1年制であった大学祭実行委員会を持ち上がり制にするなど、学生自治に向けた基盤作りを行った。

学生会本部において年度始めに年間スケジュールを立案するよう取り決め、各種イベント（リーダーズ研修・フレッシュマン研修・大学祭・交流会・体育祭・勉強会）を安定的に実施出来るよう運営支援した。

コロナ禍であったが、感染症対策を徹底し6月には青山学院大学の原晋監督による講演会を開催、3年ぶりとなった大学祭では、キッチンカーの出店など新たな取り組みを支援、過去最大規模のイベントとなった。

④課外活動

新たに新入生オリエンテーション期間中に部活動紹介、個別相談会を開催するなど積極的に課外活動を宣伝し、課題のひとつであった「課外活動」の学生満足度を10%弱向上させた。

※新入部員169名（2022年4月末時点）

⑤教育後援会

教育後援会総会時にキャリア支援セミナーを企画し、本学教授による講演会や学科懇談会、個別相談会を開催した。

⑥臨地・臨床実習

言語聴覚学科(仮称)の開設に向けて、各臨床実習について定員分の実習施設を確保し、届出書類を作成した。

※40施設

【企画課/IR 推進課】

企画課では、看護学専攻博士前期課程NPコース開設に伴い、看護学専攻博士前期課程の収容定員に係る学則変更届出を行った。そのほか、臨床工学科においては指定規則が変更となったためカリキュラム変更の申請を行い、助産学専攻科についてもカリキュラム変更の申請を行った。また言語聴覚学科設置に向けて、各部署、就任予定教員との設置準備・調整を行った。

社会連携活動としては、大阪府内の企業との連携協定1件、病院との連携協定を1件締結し

たほか、大阪市との連携協定を締結することができた。また、地域連携の主幹部署として6月23日に市民公開講座「高血圧－血圧管理で健康長寿－」を、10月25日に市民公開講座「地域の健康を守る－大学附属クリニック開設記念－」を開催した。そのほか、南港ポートタウン(太陽の町)において、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、「もりもりまちの保健室」と題した高齢者支援活動を4～7月、10～3月の計10回実施した(9月はコロナの感染状況を鑑み中止)。また、子供を対象とした地域イベント「咲洲こども EXPO 2022」に臨床工学科と共同で参加した。

新規の取り組みとしては、看護学専攻博士前期課程NPコース開設記念イベントとして、NPに関する理解を深めるシンポジウムを開催した。本学での新型コロナワクチンの職域接種の3回目として、1・2回目同様咲洲地区の企業の社員、大学、高校、保育園の教職員への接種を本学で実施したため、窓口部署としての取りまとめを行った。2025年に開催される大阪・関西万博に関して、日本国際博覧会協会や協賛企業等と情報交換を行い、会期中に本学が参画できる方法を模索した。2023年4月よりコスモスクエア開発協議会のメンバー企業が中心となって「咲洲プレ万博」を開催するにあたり、実行委員会として企画運営の準備に携わった。大学ブランディング広報強化として、7月からメディアに向けたプレスリリースを行い、26本の記事を発信した。また、本学がMBS毎日放送の特別番組である「NMB48の#エモスト」のロケ地になったことを受け、撮影に関する調整や放映に関する発信を行った。

そのほか、「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画したほか、IR推進課が担当するIR活動としては、GPAや各種テストの成績等の教学データの分析を行った。

また、企画課では学長が推進する事業の円滑な運営に注力し、各種プロジェクトやワーキンググループ、学長会議の運営事務、教育・研究に係る学長事業推進費の適正管理、「森ノ宮医療大学 第2回 荻原賞」表彰に伴う公募、選考委員会や表彰式の運営等を行った。

【広報課】

広報課では、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、対面広報とオンライン広報のどちらも重視した広報活動を行い、本学認知度の向上、さらには志願者確保に努めた。オープンキャンパスをはじめとする各種対面型のイベントについては、プログラム内容の見直しや定期的に平日イベントを開催することで、多くの参加者を動員することが出来た。また、WEB関連では公式サイトコンテンツを拡充したほか、動画の強化を図り、プロモーションムービーや授業紹介動画をはじめ、新たなラインナップ制作に取り組んだ。そのほか、昨年度までと同様にステークホルダー別に制作した各種発刊物、SNS・WEBサイトの新着情報等を通して情報発信を定期的に行った。これらの取り組みによって、資料請求者数、イベント参加者数、WEBサイトユーザー数は好調を維持し、志願者数は過去最大の人数となった。

- ・年間資料請求者数：31,738件(前年比94.2%)
- ・年間WEBサイトユーザー数：630,709(前年比99.5%)
- ・年間イベント来校者数：6,539(前年比98.7%)
- ・志願者数：6,082名(前年比106.9%)

【会計課】

会計課では、3学部7学科となり在学生・教員・職員の人数も増加しており、それにとまない増加している学費の納入処理や、多種多様な研究活動や教育活動における経費精算処理を正確かつ迅速に対応できるよう業務の改善に取り組んだ。また、3学部へ改編に伴う計算書類の表記変更への対応や、予算執行管理において部署別予算や卒業研究費予算等の執行管理のため、月末締ベースで予算執行の実績把握を行い、引き続き各部署での予算執行把握と予算編成時の参考資料の充実を図った。

学費関連の対応としては、2022年度より学費支弁者様の銀行窓口での振込手続きの手間と振込手数料の負担を軽減させるため導入した口座振替への対応のため学費納入スケジュールの見直しを行った。また、学生支援課と連携を取りながら国の修学支援新制度や奨学金などの制度を活用して、コロナ禍における収入減等による学納金納入が困難となった学生への対応を行った。

【入試課】

入試課では各部署に分散していた入試関連業務を集約し、業務の標準化を行った。結果、入試専門部署としての体制を確立した。

また、新たに設置された入試運営センターと連携し、入試の作問体制において強化を行った。その結果、第三者機関からも質の高い入試の問題であると評価を得た。また、当センターにおいて入試について全学的に協議できる体制を構築した。特に2025年度の入試改革においては継続して審議・検討を進めていき、出題科目等において外部へ公表するに至った。今後はより詳細な入試の内容や制度について体制を整えていく。

【健康管理課】

健康管理課では健康管理センターと連携し、学生の健康管理、健康増進、感染症対策、メンタルヘルスケア、臨地臨床実習関連業務等に取り組んだ。昨年度に続き感染症予防に関する対策等の指導ならびに情報発信、情報収集等を実施し、感染症予防と学生教職員の安全確保に努めた。感染症拡大予防の一環として新型コロナワクチン接種（職域接種）を継続、インフルエンザ予防接種も大阪ベイクリニックと連携し学生、教職員向けに実施した。

(2) 事業成果の概要① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

【学部】

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
鍼灸学科	1 年生	69	59	70	64
	2 年生	63	65	56	67
	3 年生	59	60	64	54
	4 年生	69	66	68	68
	計	260	250	258	253
定員		240	240	240	240
定員充足率		108.3%	104.2%	107.5%	105.4%
退学者数		12	7	12	
退学率		4.6%	2.8%	4.7%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
理学療法 学科	1 年生	70	70	70	70
	2 年生	70	70	67	70
	3 年生	67	69	67	66
	4 年生	70	70	76	70
	計	277	279	280	276
定員		270	280	280	280
定員充足率		102.6%	99.6%	100%	98.6%
退学者数		3	7	3	
退学率		1.1%	2.5%	1.1%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
看護学科	1 年生	90	90	91	90
	2 年生	87	90	90	91
	3 年生	88	85	87	85
	4 年生	83	92	90	91
	計	348	357	358	357
定員		350	360	360	360
定員充足率		99.4%	99.2%	99.4%	99.2%
退学者数		5	6	7	
退学率		1.4%	1.7%	2.0%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
臨床検査学 科	1 年生	72	72	75	70
	2 年生	71	69	71	74
	3 年生	68	68	68	69
	4 年生	68	69	68	72
	計	279	278	282	285
定員		250	260	270	280
定員充足率		111.6%	106.9%	104.4%	101.8%
退学者数		8	4	4	
退学率		2.9%	1.4%	1.4%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
作業療法学 科	1年生	52	45	50	50
	2年生	50	49	44	48
	3年生	47	48	47	43
	4年生	43	48	48	48
	計	192	190	189	189
定員	160	160	160	160	
定員充足率	120.0%	118.8%	118.1%	118.1%	
退学者数	9	6	7		
退学率	4.7%	3.2%	3.7	%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
臨床工学科	1年生	66	71	73	61
	2年生	69	62	68	70
	3年生	68	68	58	59
	4年生		66	69	66
	計	203	267	268	256
定員	180	240	240	240	
定員充足率	112.8%	111.3%	111.7%	106.7%	
退学者数	7	9	13		
退学率	3.4%	3.4%	4.9	%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
診療放射線 学科	1年生	90	93	90	87
	2年生		89	89	87
	3年生			88	87
	4年生				87
	計	90	182	267	348
定員	80	160	240	320	
定員充足率	112.5%	113.8%	111.3%	108.8%	
退学者数	1	5	6		
退学率	1.1%	2.7%	2.2	%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
学部計	1 年生	509	500	519	492
	2 年生	410	494	485	507
	3 年生	397	398	479	463
	4 年生	333	411	419	502
	計	1649	1803	1902	1964
定員		1530	1700	1790	1880
定員充足率		107.8%	106.1%	106.3%	104.7%
退学者数		45	44	52	
退学率		2.7%	2.4%	2.7%	

【大学院】

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
大学院 修士課程 (保健医療学 専攻)	1 年生	8	8	4	9
	2 年生	9	8	10	6
	計	17	16	14	15
定員		12	12	12	12
定員充足率		141.7%	133.3%	116.7%	125.0%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
大学院 修士課程/ 博士前期課程 (看護学専攻)	1 年生	2	3	6	7
	2 年生		2	2	6
	計	2	5	8	13
定員		6	12	12	12
定員充足率		33.3%	41.7%	66.7%	108.3%
退学者数		0	1	0	
退学率		0.0%	20.0%	0.0%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
大学院 博士後期課程 (医療科学専攻)	1 年生	1	3	2	1
	2 年生	1	1	3	2
	3 年生	4	2	1	3
	計	6	6	6	6
定員		6	6	6	6
定員充足率		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
退学者数		0	0	0	
退学率		0.0%	0.0%	0.0%	

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
大学院 博士後期課程 (看護学専攻)	1 年生			2	1
	2 年生				2
	3 年生				
	計			2	3
定員				2	4
定員充足率				100.0%	75.0%
退学者数				0	
退学率				0.0%	

【助産学専攻科】

学生数		2020.5.1	2021.5.1	2022.5.1	2023.5.1
助産学専攻科	1 年生	10	11	10	9
	計	10	11	10	9
定員		10	10	10	10
定員充足率		100.0%	110.0%	100.0%	90.0%
退学者数		4	2	3	
退学率		40.0%	18.2%	30.0%	

【志願者数・受験者数・合格者数】

② 2023年度 看護学部/総合リハビリテーション学部/医療技術学部 入学試験受験者数

看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	104	9	113	102	9	111	11	0	11
総合型選抜B日程 【面接併用型】	266	26	292	261	26	287	31	0	31
総合型選抜B日程 【学力重視型】	664	34	698	642	32	674	85	0	85
一般選抜前期 A日程 3科目型	110	13	123	107	13	120	20	0	20
一般選抜前期 A日程 2科目型	154	3	157	146	3	149	27	0	27
一般選抜前期 B日程 3科目型	42	8	50	39	7	46	7	0	7
一般選抜前期 B日程 2科目型	56	2	58	51	1	52	9	0	9
一般選抜 後期	78	4	82	75	4	79	25	0	25
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	32	9	41	32	9	41	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	7	4	11	7	4	11	6	0	6
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	10	0	10	10	0	10	10	0	10
計	1523	112	1635	1472	108	1580	238	0	238

理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	48	34	82	47	33	80	8	0	8
総合型選抜B日程 【面接併用型】	121	75	196	118	72	190	26	0	26
総合型選抜B日程 【学力重視型】	322	87	409	314	84	398	74	0	74
一般選抜前期 A日程 3科目型	45	28	73	42	26	68	10	0	10
一般選抜前期 A日程 2科目型	76	10	86	68	10	78	16	0	16
一般選抜前期 B日程 3科目型	26	10	36	24	9	33	6	0	6
一般選抜前期 B日程 2科目型	33	7	40	30	7	37	7	0	7
一般選抜 後期	36	20	56	35	20	55	5	0	5
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	21	14	35	21	14	35	6	0	6
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	4	4	8	4	4	8	1	0	1
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0

社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	15	0	15	15	0	15	15	0	15
計	747	289	1036	718	279	997	174	0	174

作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	20	22	42	20	22	42	16	10	26
総合型選抜B日程 【面接併用型】	22	84	106	21	84	105	15	6	21
総合型選抜B日程 【学力重視型】	54	101	155	52	98	150	41	4	45
一般選抜前期 A日程 3科目型	6	29	35	6	29	35	3	2	5
一般選抜前期 A日程 2科目型	7	15	22	7	15	22	3	0	3
一般選抜前期 B日程 3科目型	4	12	16	4	11	15	2	0	2
一般選抜前期 B日程 2科目型	7	8	15	7	8	15	3	0	3
一般選抜 後期	2	27	29	2	27	29	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	2	12	14	2	12	14	2	0	2
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	1	4	5	1	4	5	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	131	314	445	128	310	438	92	22	114

臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	41	41	82	41	41	82	20	5	25
総合型選抜B日程 【面接併用型】	65	78	143	60	75	135	16	2	18
総合型選抜B日程 【学力重視型】	168	102	270	162	97	259	56	1	57
一般選抜前期 A日程 3科目型	39	49	88	37	46	83	13	0	13
一般選抜前期 A日程 2科目型	48	19	67	45	18	63	16	0	16
一般選抜前期 B日程 3科目型	8	22	30	8	20	28	3	0	3
一般選抜前期 B日程 2科目型	13	6	19	12	5	17	4	0	4
一般選抜 後期	13	21	34	12	21	33	6	3	9
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	26	27	53	26	27	53	9	0	9

大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	4	5	9	4	5	9	3	0	3
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦選抜	7	0	7	7	0	7	7	0	7
計	433	370	803	415	355	770	153	11	164

臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	23	36	59	23	36	59	19	13	32
総合型選抜B日程 【面接併用型】	16	75	91	16	73	89	11	9	20
総合型選抜B日程 【学力重視型】	54	88	142	50	86	136	42	6	48
一般選抜前期 A日程 3科目型	6	41	47	6	40	46	4	11	15
一般選抜前期 A日程 2科目型	6	17	23	6	16	22	4	1	5
一般選抜前期 B日程 3科目型	1	15	16	1	14	15	1	5	6
一般選抜前期 B日程 2科目型	2	9	11	2	7	9	1	0	1
一般選抜 後期	1	22	23	1	22	23	1	12	13
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	6	22	28	6	22	28	3	0	3
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	0	1	1	0	1	1	0	1	1
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	121	326	447	117	317	434	92	58	150

診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	126	34	160	125	34	159	15	0	15
総合型選抜B日程 【面接併用型】	212	44	256	204	44	248	29	0	29
総合型選抜B日程 【学力重視型】	480	63	543	468	61	529	60	0	60
一般選抜前期 A日程 3科目型	98	21	119	94	20	114	19	0	19
一般選抜前期 A日程 2科目型	139	7	146	133	7	140	28	0	28
一般選抜前期 B日程 3科目型	35	5	40	31	5	36	7	0	7
一般選抜前期 B日程 2科目型	60	2	62	54	2	56	11	0	11
一般選抜 後期	65	14	79	65	14	79	8	0	8
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	53	8	61	53	8	61	9	0	9
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	14	1	15	14	1	15	3	0	3
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0

指定校推薦選抜	5	0	5	5	0	5	5	0	5
計	1287	199	1486	1246	196	1442	194	0	194

鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜A日程 【学習成果重視型】	13	19	32	13	19	32	12	11	23
総合型選抜A日程 【スポーツ実績評価 型】	7	0	7	7	0	7	7	0	7
総合型選抜B日程 【面接併用型】	4	42	46	4	39	43	4	23	27
総合型選抜B日程 【学力重視型】	16	47	63	14	44	58	14	17	31
一般選抜前期 A日程 3科目型	2	15	17	2	15	17	2	9	11
一般選抜前期 A日程 2科目型	3	9	12	3	9	12	2	0	2
一般選抜前期 B日程 3科目型	1	3	4	1	3	4	1	2	3
一般選抜前期 B日程 2科目型	1	3	4	1	3	4	1	0	1
一般選抜 後期	1	13	14	1	13	14	1	3	4
大学入学共通テスト 利用選抜 【学力重視型】	0	6	6	0	6	6	0	1	1
大学入学共通テスト 利用選抜 【面接併用型】	0	2	2	0	2	2	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	23	0	23	23	0	23	23	0	23
計	71	159	230	69	153	222	67	66	133

③ 2023年度 大学院入学試験受験者数

保健医療学専攻 【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	6	5	5	5
第2次募集	4	4	4	4
第3次募集	-	-	-	-
計	10	9	9	9

※第3次募集については定員に達したため、実施せず

看護学専攻 【博士前期課程】 NPコース	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	9	9	6	6
第2次募集	-	-	-	-
第3次募集	-	-	-	-
計	9	9	6	6

※第2次募集以降については定員に達したため、実施せず

看護学専攻 【博士前期課程】 修士論文コース	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	1	1	1	1
第2次募集	1	1	0	0
第3次募集	0	0	0	0
計	2	2	1	1

医療科学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	1	1	1	1
第2次募集	0	0	0	0
計	1	1	1	1

看護学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	1	1	1	1
計	1	1	1	1

④ 2023年度 助産学専攻科入学試験受験者数

助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	13	12	5	5
推薦入試	1	1	1	1
学内推薦入試	5	5	4	3
一般入試Ⅱ	-	-	-	-
計	19	18	10	9

※一般入試Ⅱについては定員に達したため、実施せず

⑤ 国家試験合格率

■看護師 第112回

全体 受験者数：64,051人 合格者数：58,152人 合格率：90.8%
新卒 受験者数：58,911人 合格者数：56,276人 合格率：95.5%
本学新卒 受験者数：84人 合格者数：84人 合格率：100%

■保健師 第109回

全体 受験者数：8,085人 合格者数：7,579人 合格率：93.7%
新卒 受験者数：7,477人 合格者数：7,235人 合格率：96.8%
本学新卒 受験者数：10人 合格者数：10人 合格率：100%

■助産師 第106回

全体 受験者数：2,067人 合格者数：1,977人 合格率：95.6%
新卒 受験者数：2,055人 合格者数：1,971人 合格率：95.9%
本学新卒 受験者数：7人 合格者数：7人 合格率：100%

■理学療法士 第58回

全体 受験者数：12,948人 合格者数：11,312人 合格率：87.4%
新卒 受験者数：10,824人 合格者数：10,272人 合格率：94.9%
本学新卒 受験者数：70人 合格者数：69人 合格率：98.6%

■作業療法士 第58回

全体 受験者数：5,719人 合格者数：4,793人 合格率：83.8%
新卒 受験者数：4,809人 合格者数：4,390人 合格率：91.3%
本学新卒 受験者数：43人 合格者数：43人 合格率：100%

■臨床検査技師 第69回

全体 受験者数：5,002人 合格者数：3,880人 合格率：77.6%
新卒 受験者数：4,010人 合格者数：3,589人 合格率：89.5%
本学新卒 受験者数：55人 合格者数：53人 合格率：96.4%

■臨床工学技士 第36回

全体 受験者数：2,706人 合格者数：2,311人 合格率：85.4%
新卒 受験者数：掲載なし 合格者数：掲載なし 合格率：掲載なし
本学新卒 受験者数：56人 合格者数：56人 合格率：100%

■はり師 第31回

全体 受験者数：4,084人 合格者数：2,877人 合格率：70.4%
新卒 受験者数：掲載なし 合格者数：掲載なし 合格率：掲載なし
本学新卒 受験者数：51人 合格者数：47人 合格率：92.2%

■きゅう師 第31回

全体 受験者数： 4,010人 合格者数： 2,875人 合格率：71.7%
 新卒 受験者数： 掲載なし 合格者数： 掲載なし 合格率：掲載なし
 本学新卒 受験者数： 51人 合格者数： 48人 合格率：94.1%

⑥ 職種別求人件数

本学宛にいただいた職種別の求人件数は、以下のとおりである。

職種	件数
看護師	980
保健師	136
助産師	111
理学療法士	1,575
作業療法士	1,502
臨床検査技師	530
臨床工学技士	392
診療放射線技師	217
はり・きゅう師	417
その他医療従事者	1,079
福祉関係(介護職)	1,077
教員	314
事務職	4,077
営業職	3,882
その他	6,804
総計	23,093

<有効求人倍率について>

学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値2022年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.58 倍（リクルートワークス調べ）

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床検査学科	臨床工学科	鍼灸学科
求人件数 (件)	754	949	893	310	242	442
求職者数 (人数)	84	71	43	63	60	57
求人倍率 (倍)	8.98	13.37	20.77	4.92	4.03	7.75

⑦ 学修支援センター主催事業

2022 年度 ステップアップ講座 開催実績

i. 人体の機能（全学年対象）講師：五十嵐教授

	日時	対面 / WEB	参加者数
全28タイトル	2022 年 4 月 1 日～閲覧可能	VOD	算定不能

ii. 医用治療機器学（臨床工学科3年対象）講師：布江田教授

	日時	対面 / WEB	参加者数
全5タイトル	2022 年 4 月 1 日～閲覧可能	VOD	算定不能

iii. 担当講義補講（臨床工学科2年対象）講師：原教授

	日時	対面 / WEB	参加者数
	2022 年 4 月 1 日～閲覧可能	VOD	算定不能

iv. 生物/化学リメディアル（臨床検査学科1年対象）講師：佐久間助教

	日時	対面 / WEB	参加者数
第1回	2022 年 4 月 20 日(水)	対面	45 名
第2回	2022 年 4 月 27 日(水)	対面	28 名
第3回	2022 年 5 月 11 日(水)	対面	15 名
第4回	2022 年 5 月 18 日(水)	対面	15 名
第5回	2022 年 5 月 25 日(水)	対面	12 名

v. 物理/数学リメディアル（臨床工学科1年対象）講師：佐久間助教

	日時	対面 / WEB	参加者数
第1回	2022 年 4 月 21 日(木)	対面	12 名
第2回	2022 年 4 月 28 日(木)	対面	10 名
第3回	2022 年 5 月 12 日(木)	対面	0 名
第4回	2022 年 5 月 19 日(木)	対面	4 名
第5回	2022 年 5 月 26 日(木)	対面	5 名
第6回	2022 年 6 月 2 日(木)	対面	6 名
第7回	2022 年 6 月 9 日(木)	対面	9 名
第8回	2022 年 6 月 30 日(木)	対面	7 名
第9回	2022 年 7 月 7 日(木)	対面	7 名
第10回	2022 年 7 月 14 日(木)	対面	8 名

vi. 生物学リメディアル・解剖学/生理学講座（理学療法・作業療法学科1年対象）講師：朝倉センター員

	日時	対面 / WEB	参加者数
第1回	2022 年 5 月 12 日(木)	対面	58 名
第2回	2022 年 5 月 19 日(木)	対面	47 名
第3回	2022 年 5 月 26 日(木)	対面	42 名
第4回	2022 年 6 月 2 日(木)	対面	41 名
第5回	2022 年 6 月 9 日(木)	対面	40 名
第6回	2022 年 6 月 16 日(木)	対面	39 名
第7回	2022 年 6 月 23 日(木)	対面	45 名
第8回	2022 年 6 月 30 日(木)	対面	48 名
第9回	2022 年 7 月 7 日(木)	対面	42 名
第10回	2022 年 7 月 14 日(木)	対面	28 名

vii. 解剖学/生理学講座 (臨床検査学科2年対象) 講師: 朝倉センター員

	日時	対面 / WEB	参加者数
第1回	2022年5月18日(水)	対面	12名
第2回	2022年5月25日(水)	対面	8名
第3回	2022年6月15日(水)	対面	6名
第4回	2022年6月22日(水)	対面	7名
第5回	2022年7月6日(水)	対面	8名
第6回	2022年7月13日(水)	対面	9名

viii. 生物/化学リメディアル(中級バイオ) (臨床検査学科1年対象) 講師: 佐久間助教
生化学のステップアップ～中級バイオ入門～ (臨床検査学科1年対象) 講師: 森教授

	日時	対面 / WEB	参加者数
第1回	2022年11月24日(木)	対面	6名
第2回	2022年12月1日(木)	対面	42名
第3回	2022年12月8日(木)	対面	37名
第4回	2022年12月15日(木)	対面	34名
第5回	2022年12月22日(木)	対面	8名

ix. 病態運動学 (作業療法学科1年対象) 講師: 朝倉センター員

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年11月10日(木)	対面	22名
第2回	2022年11月17日(木)	対面	19名
第3回	2022年11月24日(木)	対面	11名
第4回	2022年12月1日(木)	対面	7名
第5回	2022年12月8日(木)	対面	17名
第6回	2022年12月15日(木)	対面	11名
第7回	2022年12月22日(木)	対面	6名

x. 病態運動学 (理学療法学科1年対象) 講師: 朝倉センター員

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年11月17日(木)	対面	8名
第2回	2022年12月1日(木)	対面	14名
第3回	2022年12月8日(木)	対面	11名
第4回	2022年12月15日(木)	対面	5名

xi. 専門基礎科目を学ぶための基礎知識（数学・物理）（診療放射線科1年対象）

講師：西浦教授、垣本講師、山本教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年6月16日(木)	対面	41名
第2回	2022年6月23日(木)	対面	43名
第3回	2022年6月30日(木)	対面	42名
第4回	2022年7月5日(火)	対面	43名
第5回	2022年7月12日(火)	対面	42名
第6回	2022年7月14日(木)	対面	36名

xii. 専門基礎科目（診療放射線科1年対象）

講師：西浦教授、垣本講師、山本教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年10月17日(月)	対面	59名
第2回	2022年10月31日(月)	対面	52名
第3回	2022年11月14日(月)	対面	48名
第4回	2022年11月28日(月)	対面	48名
第5回	2022年12月12日(月)	対面	47名
第6回	2022年12月26日(月)	対面	45名

xiii. 医用画像を理解するための解剖学知識（診療放射線科2年対象）講師：船橋教授、山口教授、大橋助教

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年10月5日(月)	対面	60名
第2回	2022年10月12日(月)	対面	56名
第3回	2022年10月19日(月)	対面	60名
第4回	2022年10月26日(月)	対面	62名
第5回	2022年11月2日(月)	対面	57名
第6回	2022年11月9日(月)	対面	55名
第7回	2022年11月16日(月)	対面	56名
第8回	2022年11月30日(月)	対面	51名
第9回	2022年12月7日(月)	対面	52名
第10回	2022年12月14日(月)	対面	52名
第11回	2022年12月21日(月)	対面	55名

xiv. 内分泌・代謝（臨床工学科2・4年対象）講師：辻教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年5月17日(火)	対面	30名
第2回	2022年5月24日(火)	対面	37名
第3回	2022年5月31日(火)	対面	26名
第4回	2022年6月7日(火)	対面	32名
第5回	2022年6月14日(火)	対面	24名
第6回	2022年6月21日(火)	対面	35名
第7回	2022年7月12日(火)	対面	9名
第8回	2022年7月19日(火)	対面	11名

xv. CEに必要な化学の基礎知識（臨床工学科1年対象）講師：辻教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年5月17日(火)	対面	33名
第2回	2022年5月24日(火)	対面	31名
第3回	2022年5月31日(火)	対面	21名
第4回	2022年6月7日(火)	対面	21名
第5回	2022年6月14日(火)	対面	22名
第6回	2022年6月21日(火)	対面	23名
第7回	2022年7月12日(火)	対面	22名
第8回	2022年7月19日(火)	対面	22名

xvi. 工学系科目対策（臨床工学科2・3年対象）講師：原教授、稲田教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年5月16日(火)	対面	3名
第2回	2022年5月23日(火)	対面	1名
第3回	2022年5月30日(火)	対面	3名
第4回	2022年6月6日(火)	対面	10名
第5回	2022年6月13日(火)	対面	5名
第6回	2022年6月20日(火)	対面	2名
第7回	2022年6月27日(火)	対面	6名
第8回	2022年7月4日(火)	対面	9名
第9回	2022年7月11日(火)	対面	9名
第10回	2022年7月25日(火)	対面	11名

xvii. 電気系科目黙々勉強会（臨床工学科1・2・3年対象）講師：原教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年11月10日(木)	対面	2名
第2回	2022年11月17日(木)	対面	3名
第3回	2022年12月1日(木)	対面	3名
第4回	2022年12月8日(木)	対面	3名
第5回	2022年12月15日(木)	対面	3名

xviii. 体外循環（臨床工学科対象）講師：加納教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年12月6日(木)	対面	53名
第2回	2022年12月20日(木)	対面	26名
第3回	2023年1月17日(木)	対面	18名
第4回	2023年2月7日(木)	対面	25名

xix. 医学・救命・集中治療・麻酔（臨床工学科対象）講師：加納教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2022年12月13日(木)	対面	24名
第2回	2023年1月18日(木)	対面	11名
第3回	2023年1月30日(木)	対面	17名
第4回	2023年2月14日(木)	対面	16名

xx. 臨床工学科国家試験対策講座（診療放射線科2年対象）

	日時	場所	参加者 延数
全 22 回	2022 年 4 月 13 日(水)– 2022 年 7 月 7 日(水) 血液浄化（講師：辻教授）	対面	680 名
全 7 回	2022 年 4 月 11 日(月)– 2022 年 6 月 20 日(月) 医用機器安全管理学（講師：布江田教授）	対面	169 名
全 3 回	2022 年 7 月 4 日(月)– 2022 年 8 月 22 日(月) 医用治療機器学（講師：布江田教授）	対面	21 名
全 6 回	2022 年 7 月 14 日(木)– 2022 年 9 月 6 日(火) 電気・電子系（講師：原教授）	対面	16 名
全 17 回	2022 年 4 月 8 日(金)– 2022 年 9 月 27 日(火) 情報処理工学（講師：中沢教授）	対面	266 名
全 6 回	2023 年 1 月 20 日(金)– 2023 年 1 月 28 日(土) まとめテスト（講師：辻教授）	対面	99 名

2022 年度 資格取得支援講座 開催実績

	日時	場所	参加者 延数
全 6 回	第2種ME技術実力検定試験（講師：原教授）	VOD	—
全 5 回	2022 年 5 月 13 日(金)– 2022 年 7 月 22 日(水) 放射線取扱主任者試験（講師：大西教授）	対面	100名
全 8 回	2022 年 6 月 10 日(金)– 2022 年 7 月 29 日(金) 医療情報技師試験（講師：入江先生）	対面	94 名
全 7 回	2022 年 8 月 16 日(火)– 2022 年 8 月 24 日(水) 第2種ME技術実力検定試験 (医用治療機器学, 医用機器安全管理学) (講師：荒木先生・井上先生)	対面	313 名
全 6 回	2022 年 5 月 13 日(金)– 2022 年 7 月 8 日(火) 放射線取扱主任者試験（講師：鎰谷先生・前田先生）	対面	80 名

2022 年度 manabelチャンネル (YouTube) 運用実績

- ・チャンネル登録者数 216名（前年比 85名）
- ・視聴回数 8792回
- ・総再生時間 415.5時間

⑧研究業績

< 英文 >

看護学科

- ・ Kukimoto Y, Maeda K, Yasui N, Nakamura M. Impact of Palliative and End of Life Care Interprofessional Education for Pre-licensure Healthcare Students: An Integrated Review. Am J Hosp Palliat Care. 2023 Feb;40(2):202-215. doi: 10.1177/10499091221108344.
- ・ Yumi Iwasa, Miyoko Suzuki, Izumi Saito. Home Health Nursing Care Time for Patients with Parkinson's Disease;Journal of Personalized Medicine. 2022 12(5) 714

理学療法学科

- ・ Sawada Y, Katayama T. Characteristics of Child-Rearing Environments Related to Social Development in Early Childhood. Children (Basel). 2022 Jun 12; 9(6):877.
- ・ Sawada Y, Honda N, Narumiya M, Mizumoto H. Evaluation of the social skills of low birthweight infants using the Interaction Rating Scale. J Phys Ther Sci. 2022 Oct; 34(10):697-703.
- ・ Nakamoto M, Ideguchi N, Iwata S, Tomita S, Morimoto N, Fukuda S, Kudo S. Validity and

Reliability of Criteria for Plantar Sensation Assessment Using Semmes–Weinstein Monofilament as a Clinically Usable Index. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2022; 19: 14092

- Kunimune S, Okada S. Sex Differences in the Visuomotor Control of Obstacle Crossing When Walking Are Not Age Related. *Percept Mot Skills*. 2022; 129(3):362-377.
- Tsutsumi M, Kudo S, Nimura A, Akita K. Significance of the anatomical relationship between the flexor digitorum longus and sustentaculum tali for reconsideration of the talocalcaneonavicular joint stability mechanism. *Sci Rep*. 2022; 12(1):15218.
- Tsutsumi M, Yamaguchi I, Nimura A, Utsunomiya H, Akita K, Kudo S. In vivo magnetic resonance imaging study of the hip joint capsule in the flexion abduction external rotation position. *Sci Rep*. 2022; 12(1):6656.
- Hayashi S, Misu Y, Sakamoto T, Yamamoto T. Cross-Sectional Analysis of Fall-Related Factors with a Focus on Fall Prevention Self-Efficacy and Self-Cognition of Physical Performance among Community-Dwelling Older Adults. *Geriatrics*. 2023; 8(1): 13.

作業療法学科

- Higashi Y, Takabatake S, A Matsubara, Nishikawa K, Kaneda T, Nakaoka K, Somei Y, Árnadóttir G. Neurobehavioral Impairment Scale of the A-ONE J: Rasch analysis and concurrent validation. *Asian Journal of Occupational Therapy*. 2023; 19(1): 30-37

臨床検査学科

- Kitano M, Kawahata H, Okawa Y, Handa T, Nagamori H, Kitayama Y, Miyashita T, Sakamoto K, Fukumoto Y, Kudo S. Effects of low-intensity pulsed ultrasound on the infrapatellar fat pad in knee osteoarthritis: a randomized, double blind, placebo-controlled trial. *J Phys Ther Sci*. 2023; 35(3):163-169.
- Kitagawa T, Kawahata H, Aoki M, Kudo S. Inhibitory effect of low-intensity pulsed ultrasound on the fibrosis of infrapatellar fat pad through the regulation of hypoxia-inducible factor-1 α in a carrageenan-induced knee osteoarthritis rat model. *Biomed Rep*. 2022 Aug 9;17(4):79. doi: 10.3892/br.2022.1562.
- Takeshita H, Yamamoto K, Mogi M, Nozato S, Rakugi H. Is the anti-aging effect of ACE2 due to its role in the renin-angiotensin system?-Findings from a comparison of the aging phenotypes of ACE2-deficient, Tsukuba hypertensive, and Mas-deficient mice. *Hypertens Res*. 2023 Feb 14;1-11.
- Sekine S. Pre-graduate teaching of human parasitology for medical laboratory technologist programs in Japan. *Humanit Soc Sci Commun* 9, 225 (2022). <https://doi.org/10.1057/s41599-022-01246-w>
- Noda H, Yutani C, Zaima N, Komatsu S, Iwa N, Takahashi S, Takewa M, Ohara T, Kodama K. Detection of macrophages engulfing cholesterol crystals and docosahexaenoic acid from spontaneous ruptured aortic plaque. *J Cardiol Cases*. 2022;26(5): 364-366.

診療放射線学科

- Takamura H, Nakayama Y, Ito H, Katayama T, Fraser PE, Matsuzaki S. SUMO1 Modification of Tau in Progressive Supranuclear Palsy. *J Mol Neurobiol*. 2022 59(7):4419-4435. doi: 10.1007/s12035-022-02734-5.
- Yamamoto K., Sato Y., Hagihara K., Kirikihira K., Jotaki A., Michihara A., Miyake Y. Effects of Rikkunshi-To, a Japanese kampo medicine, on donepezil-induced gastrointestinal side effects in mice. *J Pharmacol Sci*, 150: 123-133, 2022.
- Masao Funahashi, Kazuyuki Kashiya, Tomomi Nakamura, Junji Shiraishi. Utilization of upper and lower limits of exposure index in clinical digital radiography. *Radiological Physics and*

鍼灸学科

- Yamashita H, Okawa Y, Masuyama S. Signage-associated improvement in hand hygiene compliance: a low cost strategy. *Infect Prev Pract.* 2022; 4: 100225.
- Masuyama S, Yamashita H. Trends and quality of randomized controlled trials on acupuncture conducted in Japan by decade from the 1960s to the 2010s: a systematic review. *BMC Complement Med Ther.* 2023; 23: 91.
- Kitano M, Kawahata H, Okawa Y, Handa T, Nagamori H, Kitayama Y, Miyashita T, Sakamoto K, Fukumoto Y, Kudo S. Effects of low-intensity pulsed ultrasound on the infrapatellar fat pad in knee osteoarthritis: a randomized, double blind, placebo-controlled trial. *The journal of physical therapy science;* 35(3):163-169. 2023
- Nakahara H, Kawai E, Miyamoto T. Acute effects of regional heat stimulation by indirect moxibustion on cardiovascular responses. *J Physiol Sci.* 2022 Nov 24;72(1):30. doi: 10.1186/s12576-022-00855-z.

大学院

- Akasaka H, Sugimoto K, Shintani A, Taniuchi S, Yamamoto K, Iwakura K, Okamura A, Takiuchi S, Fukuda M, Kamide K, Fujio Y, Nakatani S, Ogihara T, Rakugi H; EXCEED investigators. Effects of ipragliflozin on left ventricular diastolic function in patients with type 2 diabetes and heart failure with preserved ejection fraction: The EXCEED randomized controlled multicenter study. *Geriatr Gerontol Int.* 2022; 22: 298-304.
- Sasaki U, Tamaki M, Tomita T, Okada S. Total knee arthroplasty with patient-specific instrumentation to correct severe valgus deformity in a patient with hereditary multiple exostoses. *Arthroplast Today.* 2022 Jun 24;16:175-181.
- Ishibashi T, Yamazaki T, Konda S, Tamaki M, Sugamoto K, Tomita T. Kinematics of bicruciate stabilized and cruciate retaining total knee arthroplasty. *J Orthop Res.* 2022 Jul;40(7):1547-1554.
- Kono K, Yamazaki T, Konda S, Inui H, Tanaka S, Sugamoto K, Tomita T. In Vivo three-dimensional kinematics of normal knees during sitting sideways on the floor. *BMC Musculoskelet Disord.* 2022 Apr 6;23(1):326.
- Matsubara Y, Nakamura Y, Tamura N, Kameda H, Otomo K, Kishimoto M, Kadono Y, Tsuji S, Atsumi T, Matsuno H, Takagi M, Kobayashi S, Fujio K, Nishimoto N, Okamoto N, Nakajima A, Matsui K, Yamamura M, Nakashima Y, Kawakami A, Mori M, Tomita T. A nationwide questionnaire survey on the prevalence of ankylosing spondylitis and non-radiographic axial spondyloarthritis in Japan. *Mod Rheumatol.* 2022 Aug 20;32(5):960-967.

<和文>

看護学科

- 岩佐由美, 藤井千枝子. 高齢患者の安全のための服薬アドヒアランス パーキンソン病患者の服薬の自己調整に関連する症状と受療行動のリスク要因. *日本健康医学会雑誌* 2022 ; 31(2) : 150-158.
- 岩佐由美. 新型コロナウイルス感染症により兵庫県内の訪問看護ステーションが受けた変化 地域性と規模による変化の差. *保健の科学* 2022 ; 64(11) : 783-789.
- 宮本佳子, 押谷由夫. 看護学実習指導の在り方についての検討ーチームワーク形成を中心とした卒業生の振り返りからー. *武庫川女子大学大学院臨教育研究科紀要* 2022. (1341-2434).28号 19-32

- ・蓮池光人, 原良昭, 吉村弥須子, 村上生美, 白井文恵, 小西由起子, 青木元邦, 荻原俊男. COVID-19パンデミックがもたらした看護大学生・卒業生の意識と行動変容に関する研究 森ノ宮医療大学紀要2022 ; 16 : 23-37.
- ・徳島佐由美, 安井渚. 新型コロナウイルス感染拡大下にある小児看護学における保育園実習の検討. 森ノ宮医療大学紀要 2022 ; 16 : 47-55.

理学療法学科

- ・中根征也, 石倉健二, 杉本圭. 自閉スペクトラム症児における静的・動的バランス能力の特徴と運動介入が社会的相互作用に及ぼす可能性. リハビリテーション心理学研究. 2022 ; 48(1) : 91-99.

作業療法学科

- ・田中彩香, 由利祿巳. コラージュ制作後の振り返りが自尊感情と自己効力感に及ぼす影響の検討—準ランダム化比較試験—. 森ノ宮医療大学紀要, 2022; 16 : 39-46.

臨床検査学科

- ・朝倉智仁, 網野悟, 川畑浩久. 徒手整復に難渋した肘内障の2例. 日本柔道整復接骨医学会誌 32(1). 2022. In press.

診療放射線学科

- ・山口 功, 嶋田真人. 視覚的ノイズ量を考慮した低線量CT肺がん検診に適した画像再構成条件の選択. CT検診. 2022; 29(2): 25-33.

鍼灸学科

- ・嶋田浩, 増山祥子, 山下仁. 写真評価者ブラインドによる美顔鍼の効果判定. 日本統合医療学会誌. 2022; 15: 17-25.
- ・大川祐世, 増山祥子, 辻丸泰永, 仲西宏元, 山下仁. 森ノ宮医療大学附属鍼灸施術所の受療患者統計 (2007~2020) . 森ノ宮医療大学紀要; 16. 9-21.

大学院

- ・今田優子, 波多野弥生, 黒川友里亜, 三瀬雅史, 高野博徳, 遠藤容子, 吉岡敏治. OTC配合剤の過量摂取における配合成分と症状の関係 イブプロフェン含有解熱鎮痛薬を例として. 中毒研究. 2022; 35: 345-350.

⑨競争的研究資金獲得状況 (文部科学省科学研究費助成事業-科研費-)

<新規>

- ・基盤研究(C) 布江田 友理「ウェアラブルデバイスによる拡張現実と画像処理技術を用いた実技技能評価ツールの構築」
- ・基盤研究(C) 大川 祐世「鍼技法の診療ガイドラインは実用可能か？ランダム化比較試験による検証」
- ・基盤研究(C) 中村 めぐみ「高齢関節リウマチ患者の運動処方時アクティブゴール設定アプローチの構築と効果の検証」
- ・基盤研究(C) 今井 信也「水晶体被ばく測定機能を備えた軽量高減弱な次世代型放射線防

護メガネの開発」

- ・若手研究 垣本 晃宏「放射性医薬品投与VRシステムにおける緊張感と学習効果の関連性評価」
- ・若手研究 宮下 敏紀「慣性センサーによる高齢者の歩行中の同時収縮の解析手法の開発」
- ・若手研究 堤 真大「疎性結合組織から考える股関節の運動療法革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 国宗 翔「複数の障害物回避における視覚運動制御に影響する歩行環境および身体要因の検討」
- ・研究活動スタート支援 下岡 ちえ「基礎看護学教育における患者安全の基盤となるリスクセンスの検討」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 辻 義弘「「おしっこ」ってどうやってつくられるんだろう？人工腎臓で学ぶ腎臓の不思議な働き」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 松崎 伸介「病気を見つける！病気を知る！病気と闘う！：基礎医学研究から診断・医療・治療へ」

<継続>

- ・基盤研究(C) 大西 英雄「非密封放射性線源の取り扱いに関する体感型 VR 学習支援システムの開発と脳科学的評価」
- ・基盤研究(C) 関根 将「臨床検査技師養成のための e-learning を用いた寄生虫学教育プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 松崎 伸介「糖尿病における小胞体ストレス応答とSUMO 化」
- ・基盤研究(C) 外村 昌子「感染予防対策と ICT を活用した介護予防プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 由利 緑巳「日本版リエイブルメントモデル」の構築に向けた IADL 障害評価表の開発研究」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「鍼刺激が運動時呼吸循環応答及び運動パフォーマンスに及ぼす短期的・長期的効果の検証」
- ・基盤研究(C) 佐野 加奈絵「形態的・機能的特徴からひも解く高齢者の骨格筋調整機序の確立：健康長寿社会に向けて」
- ・基盤研究(C) 中沢 一雄「位相シンギュラリティに基づく心房細動のダイナミクス変容とロバスト性に関する研究」
- ・基盤研究(C) 増山 祥子「がん緩和ケアとしての鍼の応用可能性：歴史的対照群との比較およびナラティブの評価」
- ・基盤研究(C) 山下 仁「非薬物療法の効果量推定を阻害する対照群の異質性に関するシステムティック・レビュー」
- ・基盤研究(C) 小西 由起子「再就職看護師の組織社会化に関する研究」
- ・基盤研究(C) 久木元 由紀子「医療系学生に対する終末期ケア多職種連携教育プログラム開発と効果」
- ・基盤研究(C) 徳島 佐由美「重症心身障害児のリロケーションを支援する在宅レスパイトプログラムの開発と検証」
- ・基盤研究(C) 稲田 慎「多階層3次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するプログラムの開発と検証」
- ・基盤研究(C) 仲村 正子「超音波診断装置を用いた教材開発」(延長)
- ・基盤研究(C) 内田宏美「スカイプを活用した訪問看護ステーション医療安全管理担当者の

スキルアップ支援」(延長)

- ・基盤研究(C) 岡田 公江「正常妊娠経過の初産婦における妊娠初期の睡眠の質と妊娠末期の血圧上昇との関連性」
- ・基盤研究(C) 武 ユカリ「訪問看護における暴力防止のためのe-learningによる教育プログラム開発」
- ・基盤研究(C) 齋藤 雅子「JNCASTを基に開発した「不妊治療後母子相互作用促進プログラム」の有用性検証」
- ・基盤研究(C) 寺田 美和子「認知症カフェ・ボランティア養成のための学習コミュニティの構築」(再々延長)
- ・若手研究 仲本 正美「VR を用いた座位での選択反応リーチ課題が高齢者の歩行時の足関節機能に及ぼす影響」
- ・若手研究 辻 義弘「造血能向上を図り慢性腎臓病患者の機能性鉄欠乏の改善に効果的な運動プログラムの開発」
- ・若手研究 東 泰弘「高次脳機能障害患者のトイレ動作尺度の開発とトイレ動作に影響を与える因子の解明」
- ・若手研究 小川 泰弘「統合失調症における病識の背景要因の解明および要因に基づく新しい治療戦略の構築」
- ・若手研究 中西 一「パーキンソン病患者の食事、歯磨き時の視線分析～動作が行いやすい視覚環境の提案～」(延長)
- ・若手研究 林 真太郎「高齢者の転倒予防自己効力感と身体能力の自己認識からみるリハ介入の工夫」
- ・若手研究 信江 彩加「ヒト全身反応時間を決定する中枢・末梢神経系の可塑性の解明」
- ・若手研究 木内 隆裕「片側上肢の運動がもたらす反対側上肢への運動プライミング」
- ・若手研究 澤田 優子「ハイリスク出生コホートに基づく当事者主体の発達支援プログラムの開発評価」
- ・若手研究 堤 真大「関節包」から考える股関節鏡治療革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 工藤 慎太郎「ランニング障害を引き起こす足部 type の解明 -足部機能に基づく足部分類の開発-
- ・若手研究(B) 関口 敏彰「地域在住高齢者の健康寿命延伸に資する腎機能保持を考慮した栄養摂取量の検討」(再々延長)
- ・研究活動スタート支援 山畑 飛鳥「VR を用いた診療放射線技師養成教育におけるロールプレイ学習に関する検証」(延長)
- ・国際共同研究強化 松崎 伸介「痴呆性疾患におけるゴルジ体制御因子 SCYL1 の意義の解明」(再延長)
- ・挑戦的研究(萌芽) 山本 浩一「胸部単純エックス線写真からの骨粗鬆症判定システムの構築とその応用」

⑩ 令和4年度連携協定

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 令和4年 4月 26日 | 西尾レントオール株式会社 … 相互連携 |
| 令和4年 5月 30日 | 医療法人聖和錦秀会阪和いずみ病院 … 相互連携 |
| 令和4年 9月 16日 | 大阪市 … 包括連携 |

⑪ 社会貢献事業

・新型コロナウイルスワクチン職域接種

西尾レントオール株式会社の全面的協力のもと、本学内に仮設会場を建設し、3回目の新型コロナワクチン職域接種を共同で行った。本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区で働く企業・団体・大学や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校からも参加があった。

・市民公開講座

日時	テーマ	講演	タイトル	参加人数
6月23日(木) 13:00~15:00	高血圧	基調講演	高血圧ー血圧管理で健康長寿ー	83名
		講演Ⅰ	高血圧の予防の食事、高血圧症の方のための食事	
		講演Ⅱ	血液透析療法について	
		講演Ⅲ	生活習慣病を予防するために今できること	
10月25日 (日) 13:30~15:30	地域の健康を守る ~附属クリニック 開設記念~	基調講演	100歳まで元気で歩けるロコモ予防	126名
		講演Ⅰ	知ろう、生活習慣病	
		講演Ⅱ	変形性膝関節症のリハビリテーション	
		講演Ⅲ	POWERED LIFE	

【みどりの風クリニック・大阪ベイクリニック】

2022年9月30日をもってみどりの風クリニックを閉院し、2022年11月1日に大学西棟1階に「森ノ宮医療大学附属大阪ベイクリニック」を開院した。最新式の精密検査機器を備え、総合内科専門医・循環器内科専門医・整形外科専門医等による質の高い医療の提供、診察と予防医学の重要性に着目した各種ドック（生活習慣病ドック・認知症ドックなど）、さらにはリウマチ科・再生医療など特殊外来を設置し、大学附属クリニックならではの先進的医療を展開した。また本学と連携協定等を締結している大阪府内の中核病院・基幹病院と手術等の積極的な治療が必要な場合に備え更なる関係強化を図った。

1) みどりの風クリニック実績報告（4月～9月）

(1) 保険診療実績

		全体			内科			整形		
月	日数	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
4	20	1,499	6,678,920	4,456	393	1,831,920	4,661	1,106	4,847,000	4,382
5	18	1,242	6,114,670	4,923	389	1,960,630	5,040	853	4,154,040	4,870
6	22	1,302	6,297,540	4,837	275	1,379,930	5,018	1,027	4,917,610	4,788
7	20	1,140	5,493,530	4,819	262	1,418,280	5,413	878	4,075,250	4,642
8	20	1,082	5,264,860	4,866	331	1,670,160	5,046	751	3,594,700	4,787
9	20	890	4,985,700	5,602	245	1,618,790	6,607	645	3,366,910	5,220
計	120	7,155	34,835,220	29,502	1,895	9,879,710	31,786	5,260	24,955,510	4,781

2) 大阪ベイクリニック実績報告（11月～3月）

(1) 保険診療実績

		全体			内科			整形		
月	日数	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
11	20	468	3,370,530	7,202	142	878,320	6,185	326	2,492,210	7,645
12	20	638	4,773,260	7,482	254	2,468,280	9,718	384	2,304,980	6,003
1	17.5	571	3,722,600	6,519	183	1,347,030	7,361	388	2,359,520	6,081
2	19	729	4,819,480	6,611	268	2,030,490	7,576	461	2,788,990	6,050
3	22	825	4,849,520	5,878	286	1,927,860	6,741	539	2,921,660	5,421
計	98.5	3,231	21,535,390	33,692	1,133	8,651,980	37,581	2,098	12,867,360	6,240

(2) 施設基準等

- ・運動器リハビリテーション（Ⅱ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）
- ・ニコチン依存症管理料
- ・二次性骨折予防継続管理料³

(3) 指定機関等

- ・保健医療指定機関
- ・診療・検査医療機関準A型（発熱患者）
- ・難病特疾病医療機関
- ・再生医療等提供機関
- ・労災医療指定機関
- ・生活保護法等による指定医療機関

(4) 連携病院

- ・大阪急性期・総合医療センター
- ・大阪国際がんセンター
- ・日本生命病院
- ・大阪みなと中央病院
- ・南大阪病院大阪
- ・グローバル整形外科病院
- ・南港病院
- ・多根総合病院
- ・JHCO大阪病院

(5) 本学との連携

- ・学生実習受入れ機関（看護学科、理学療法学科、臨床検査学科、診療放射線学科）
- ・各種ワクチン接種業務
- ・学生実習前検査業務
- ・体調不良学生の受け入れ
- ・新入教職員健診業務

2. 森ノ宮医療学園専門学校

【サマリー】

「定員充足率の向上」「国家試験合格率の向上」を目標に掲げ、2022年度事業は運営した。しかし、合格率、定員充足率の当初目標達成は困難となった。

具体的施策として、国家試験合格率の向上に向けて、定点観測のための模擬試験・課題ドリルの作成・専門基礎科目の動画配信・成績不良者を対象とした講座を実施した。

鍼灸学科においては、全国平均を上回る合格率となったが、柔整学科では合格率をあげることができなかった。

コロナ禍でも学生の学習を止めないための取組を実施した。広い自習室の確保、欠席者が動画を視聴できるように動画撮影を継続した。

(1) 実施事業の概要

2023年度までの5ヵ年計画である第2期中期経営計画の基本目標として「関西圏トップの実現」を掲げ、初年度となる2022年度については、以下の事業を展開した。

1) 教育事業の概要

① 在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

【鍼灸学科】

- ・4月に入学前課題のチェックテストを実施し、それに基づき5月より面談を実施した。
- ・ゼミについて、実技ゼミやとくゼミは対面にて実施した。学習関連ゼミは例年通り動画配信にて行った。2021年度に比べ、ゼミなどもコロナ禍前の状態に戻すことができ学校生活の充実を図った。
- ・学生の学習に対する悩みなどを早期に把握するために全学生に対し、年に2回以上の面談を実施した。
- ・1年次より定期的、計画的に診断テストや模擬試験を実施することにより、早期に現状の把握を行っている。これにより、学習状況に問題のあると思われる学生に対してきめ細やかな対策を立てることができ、個々の学生はもちろん、全体的な成績の向上がみられた。
- ・1年次からの定期テスト等の各種試験や面談の結果などを一覧で確認することができる学生カルテを作成し、2022年度も継続して実施し、国家試験に向けて弱点克服の一助とした。
- ・従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。また入学前に鍼灸を経験することにより職業理解を深めるためにみどりの風鍼灸院での入学決定者を対象に入学前受療体験を実施している。
- ・2020年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。特に定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習する機会となっており、その後の年次進行に伴う理解不足の増大を解消することができている。しかし、本試験後に実施するため、その内容を聞いて本試験に真面目に取り組まずに追試験

で合格すれば良いという考えを持つ学生が一部にみられた。そのため振り返りについての位置づけについて今後検討していく必要があると考えられた。

- ・2018 年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。それでもなお不合格の場合は年度末に実施される未修得単位試験に合格できなかった場合のみ留年となることとした。一見試験が増えることとなり学生の負担が増える様には見えるが、実際はそうではなく、むしろ理解不足を解消するよい機会となっており、学修内容を理解したうえで進級できるようになっている。

【柔道整復学科】

- ・救急救命法を習得するために日本赤十字の救急法講習を実施した。
- ・2021 年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。
- ・2020 年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。定期試験での躓きを復習する機会としているが、テスト問題をすべて解説される授業もあるため、追試験該当者が本試験のときから振り返りでテスト範囲を確認して勉強するというパターンもみられるため、振り返り授業のあり方について検討をしていく必要があると思われる。
- ・夏季特別講座を対面にて実施した。1 年生は身体の基本を知る解剖学（骨学）および実技の復習・模擬試験、2 年生は実技・模擬試験について、3 年生は実技・解剖学（骨・筋）・模擬試験について実施した。
- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。
- ・解剖学・生理学・柔道整復総論などのゼミ動画の配信を行った。
- ・2019 年には卒業生・在校生を対象とした臨床塾を開催していたが、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。
- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。
- ・中期より実技ゼミを実施した。
- ・中期より国家試験対策ゼミを実施した。

② 国家試験対策

【鍼灸学科】

- ・2017年度入学生より、入学前課題・入学前課題チェックテスト・各期における診断テスト・模擬試験等を実施している。2021年度は2020年度に比べると大幅に下がる結果となったが、2022年度は、この4年間で最も良い合格率となった。
- ・1年次から使用できるオリジナルの国家試験対策ドリルの作成を行い、学生が現在の理解度を確認できるようにした。
- ・3年生の成績不振者を対象とした特別強化授業を実施した。2022年度は前期は週に1回、中期・後期は週3回実施した。また、国家試験直前の2週間は、毎日3時間実施した。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。聴講生の中から合格者も出て、一定の効果がみられた。

【柔道整復学科】

- ・2020年度より本格的に1年次からの成績分析を実施するようになったため、まだ一定の成果を得るには至っておらず、2022年度の卒業率・合格率も低調であった。3年間の積み重ねにより国家試験合格に結びつくため1年次から計画的な取組を実施していきたい。
- ・各学年において、前期・中期・後期と診断テストを実施した。また、夏休み前と春休み前に1・2年生に模擬試験を実施し、当該学年での学習状況の把握を行った。
- ・柔道整復学校協会の模擬試験を実施した。自校作成の問題だけでなく視点の違う問題を解いていくことで、国家試験合格に向けての幅の広い問題対応力が身に付いた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。

③ 社会貢献

【鍼灸学科】

- ・例年は卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を行っているが2022年度は、2021年度・2020年度卒業生を対象に実施した。

【柔道整復学科】

- ・森ノ宮柔道整復学術集会を例年開催していたが新型コロナウイルスにより実施することができなかった。

④ 教員研修

【鍼灸学科】

- ・東洋療法学校協会の教員研修会に参加した。また、教員が希望する研修に参加するようになった。

【柔道整復学科】

- ・授業などの質を向上させるために、各教員がそれぞれ「研究」「臨床」「トレーナー」などの活動に取り組んでいる。教員の資質向上に加えて、研究結果や実際の症例を授業に盛り込むことで、教科書だけでは学べない幅広い内容の授業が展開できている。

2) 事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教育支援部】

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」については、春季講座、秋季講座、計18名が受講した。また、森ノ宮医療大学助産学専攻科の必修科目としての開講は例年通り開講した。
- ・NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座を開催し、8名（定員 20 名）が受講した。
- ・連携協定を締結している大阪社体スポーツ専門学校の医療特修コースの学生4名がダブルスクール入学審査を受け、2022年4月から鍼灸学科夜間コース2名、柔道整復学科夜間コース2名が本校にAT特修コース生として入学した。

【教育支援部：調査課】

- ・京都治療院の運営及び実習施設として機能していくためのフォローを行った。
- ・京都治療院を通じて、スポーツ実習現場確保のためINAC神戸との連携体制構築のフォローを行った。
- ・第20回近江杯柔道大会においてを教務課と協働し、大会時の救護対応を行うほか、副教材として活用できるよう動画記録を行う。また4年ぶりに学生4名参加し、教員の管理下のもと学生によるアイシング・テーピング等の現場実習を行えた。
- ・法人本部、管理課、経理課と連携し、コムシス跡地の購入、解体工事業者選定、整備にあたるほか、税事務所の対応を行った。
- ・法人本部、教務部等、管理課と連携し、クリニック移転後の緑橋校舎の整備にあたるほか、消防署への対応を行った。また、鍼灸院・接骨院に関する変更届等の対応を行った。

【学術部】

- 例年は、前年度実績に基づき個人学術研究費を配分していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研究活動が行えなかったため、個人配分は停止し、必要に応じて使用するようにした。
- ・昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により、以前のように研究活動が行うことができず、学会については参加の場合もオンライン参加が主体となった。
- ・倫理委員会の運営においては、2016 年度より研究倫理審査も開始しており、適切な倫理審査が行われている。

【図書課】

- ・利用者の利便性向上を目的として新たに書架を設置し、開架図書の拡充を行った。
- ・年度の上半期および下半期に教職員を対象に図書購入リクエストを実施した。
- ・図書委員会を2022年9月5日（月）と2022年2月23日（金）に開催し、購入図書を決定したほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・図書委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。

- ・ 図書室利用者からの図書購入リクエストを随時受け付け、月毎に図書委員会の審査を経て承認された書籍を購入した。
- ・ 校友会から図書購入費として 40 万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・ 図書室会議を月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・ 図書室書架の書籍について精査を行い、不要な図書については順次廃棄を行った。
- ・ 蔵書点検も滞りなく行われた。

【学務課】

- ・2022年度の学生健康診断については外部医療機関に出張健康診断を依頼の上、6月10日に実施した。当日に欠席した学生の健康診断は6月中に個別に行い、最終的な受診率は96.6%であった。
- ・教育訓練給付制度利用者に対し、申請書類の発行を行った。
- ・日本学生支援機構奨学金を始めとする奨学金を利用する学生への支援を行った。
- ・5月からの約2カ月間、「春の就職フェア」として、ご協力いただいた求人先365院の求人情報を本校舎1階に掲示した。また冊子化を配布した。
- ・10月2日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院50院、卒業生を含む参加学生37名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行い、2021年度卒業生各人の現状を確認することができた。
- ・就職を希望する学生への就職支援を行った。また、治療院等の就職先からの求人票を受付、学生に公開した。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については55名の利用があった。そのうち早期合格者特典として履修した入学予定者は47名であった。
- ・2023年1月2日に2023年度入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて55名の参加があり、アンケート結果では満足度100%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。
- ・みどりの風保育園の利用数については、中期から恒常的に利用する学生が現れたため、2021年度に比べると増加した。
- ・学生生活満足度調査を実施した。
- ・2021年度自己点検・自己評価報告書を作成し Web ページにて学生向けに公表した。また、自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価を行った。

【管理課】

- ・保守期限の切れた本校舎電話主装置について、更新工事を実施した。
- ・本校舎受電ケーブルの入替工事を実施した。
- ・本校舎の防犯カメラ更新を行い、より解像度の高いカメラに入れ替えた。
- ・本校舎306実技室の空調機修繕工事を実施した。
- ・本校舎2階トイレの手洗い自動水栓及び排水管の更新工事を実施した。
- ・本校舎6階トイレの手洗い自動水栓の更新工事を実施した。
- ・本校舎7F講堂扉ドアクローザーの修繕工事を実施した。
- ・アネックス校舎柔道場の排煙窓オペレーターハンドルの補修工事を実施した。
- ・アネックス校舎柔道場、4階ホールのキーシリンダー入替工事を実施した。
- ・緑橋校舎1階処置室系統の空調機更新工事を実施した。
- ・緑橋校舎1階自動ドアの修繕工事を実施した。
- ・緑橋校舎1階・3階の空調洗浄、3階の換気扇洗浄を実施した。
- ・緑橋校舎1階照明のLED化工事を実施した。
- ・緑橋校舎のクリニック閉院に伴い、電話・ネット関連の請求先を専門学校に変更、MRI、電子カルテ用の電話・ネット回線、公衆電話の廃止手続きを実施した。
- ・本校舎・緑橋校舎の年次停電点検を実施した。

- ・本校舎地下駐輪場の放置自転車を撤去した。
- ・本校舎地下倉庫内の機密書類を廃棄した。
- ・東成消防署によるアネックス校舎への消防設備立ち入り検査があったが、指摘事項は特に無かった。
- ・東成消防署による立ち会いのもと、消防訓練を実施した。4年ぶりに学生も参加した。
- ・東成区街づくりセンター主催の「災害講習会」に参加した。
- ・防災備蓄食料の入替を行った。期限の近づいた食料については、学生及び教職員へ配布を行った。
- ・事務局での学生、教職員向けの冷凍食品販売について、825食の売上げであった。
- ・清掃・施設管理業者のコンペを実施し、よりサービス力の高い業者を選定した。
- ・本校舎の電話会社を変更し、電話料金のコストダウンを図った。
- ・実施要項案の作成や特別協賛の依頼など文化祭開催のサポートを行った。
- ・日本コムシスビルの解体工事および跡地の整地を実施した。

【入学広報課】

- ・学生募集に関するイベントとして、以下を実施した。
オープンキャンパス、学校説明会、AO 入試対策講座、授業見学会、個別相談会など
- ・学生募集ツールとして以下の広報誌を作成した。
学校案内、入試要項一式、高校生／社会人向けリーフレット、イベント告知DM、女性特集リーフレット、鍼灸&柔整分野リーフレット、イベントガイドなど
- ・WEB サイト運営として、ページ更新／コンテンツ改定、新着情報の発信、動画制作などを行った。また、検索サイトで上位表示されるための SEO 対策を常時講じた。
- ・SNS（インスタ、Facebook、Twitter、LINE）から情報の発信を実施した。
- ・リスティングやリターゲティング、SNS でのWEB 広告を展開した。
- ・高校訪問、高校へのガイダンス、出張講義ガイダンスを実施した。
- ・進学媒体（進学情報誌、進学サイト）へ広告出稿を行った。

※事業成果データ

- ・資料請求者数 6,005 件(昨年比 108%)
- ・公式サイト訪問者数 118,460 (昨年比 85%)
- ・イベント来校者数：462 名 (昨年比 91%)
- ・志願者数 128 名 (昨年比 79%)

(2) 事業成果の概要

①在籍学生数

(単位：人)

2023年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	58	2	0	64	3	3	65	0	1	187	5	4
	夜	12	0	0	13	1	1	15	2	2	40	3	3
柔道整 復学科	昼	33	1	0	33	0	0	37	1	0	103	2	0
	夜	11	0	0	23	2	1	15	0	0	49	2	1
合計		114	3	0	133	6	5	132	3	3	379	12	8

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2022年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	69	1	0	71	1	1	74	2	1	214	4	2
	夜	15	2	0	15	2	1	19	2	2	49	6	3
柔道整 復学科	昼	38	1	0	39	0	0	35	2	0	112	3	0
	夜	23	1	0	19	1	1	11	0	0	53	2	1
合計		145	5	0	144	4	3	139	6	3	428	15	6

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2021年 4月1日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学 科	昼	80	3	0	75	2	1	58	2	1	213	7	2
	夜	17	1	1	20	2	2	20	2	2	57	5	5
柔道整 復学科	昼	48	0	0	36	0	0	35	9	0	119	9	0
	夜	20	2	1	13	0	1	20	0	0	53	2	2
合計		165	6	2	144	4	4	133	13	3	442	23	9

* 留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
退学者数	42	26	25	27	21
退学者比率	9.2%	6.0%	5.8%	6.1%	4.9%
在学生数	457	430	432	442	427

③志願者数

(単位:人)

入学年度		2018	2019	2020	2021	2022
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前コース	42	46	55	39	40
	昼間コース	33	39	42	38	31
	夜間コース	21	27	25	16	17
柔整	選択コース	32	19	14	24	19
	昼間コース	26	21	29	17	14
	夜間コース	22	24	22	29	14
合計		154	176	187	163	135

④国家試験合格率

<2022 年度>

はり師きゅう師国家試験 (第 48 期)

国家試験成績		2022 年度 (第31回) 2023年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	84	78	92.9%
	きゅう師	84	79	94.0%
全現役受験者	はり師	3,271	2,797	85.5%
	きゅう師	3,271	2,809	85.9%
本校全受験者	はり師	130	84	64.6%
	きゅう師	127	86	67.7%
全受験者	はり師	4,084	2,877	70.4%
	きゅう師	4,010	2,875	71.7%

柔道整復師国家試験 (第 21 期)

国家試験成績		2022 年度 (第31回) 2023年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	41	14	34.1%
全現役受験者	柔道整復師	3,201	2,092	65.4%
本校全受験者	柔道整復師	74	14	18.9%
全受験者	柔道整復師	4,521	2,244	49.6%

<2021 年度>

はり師きゅう師国家試験 (第 47 期)

国家試験成績		2021 年度 (第30回) 2022年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	67	54	80.6%
	きゅう師	67	55	82.1%
全現役受験者	はり師	3,059	2,761	90.3%
	きゅう師	3,059	2,795	91.4%
本校全受験者	はり師	101	59	58.4%
	きゅう師	97	59	60.8%
全受験者	はり師	3,982	2,956	74.2%
	きゅう師	3,892	2,963	76.1%

柔道整復師国家試験（第 20 期）

国家試験成績		2021 年度（第30回）2022年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	40	29	72.5%
全現役受験者	柔道整復師	3,125	2,531	81.0%
本校全受験者	柔道整復師	82	35	42.7%
全受験者	柔道整復師	4,359	2,740	62.9%

⑤求人状況

・求人倍率

	鍼灸学科 (はり師・きゅう師)	柔道整復学科 (柔道整復師)
求人数 (人)	4,366	4,385
求職者数 (人)	24	10
求人倍率 (倍)	181.9	438.5

【京都治療院】

(1) 人員体制

常 勤：柔道整復師 2 名、鍼灸師 1 名 計 3名

受 付：2 名（午前 1 名、午後 1 名）

(2) 治療院業務日数。

①診療日数 238日

・診療日時 9：00～12：30（受付終了：12:00）／16：00～20：00（受付終了 19:30）
月～金（休診：土・日・祝日・他）

②休診日数 127日

(3) 広報・院外活動

【継続活動】

①トレーナー活動

（京都大学男子ラグロス部、京都大学女子ラグロス部、京都精華高校サッカー部、京都大学男子バスケット部）

②運動部マネージャー等対象とした勉強会開催（ケガ予防やテーピング方法等：年 3～6 回程）

③小児鍼普及活動（地域児童館において小児鍼体験講座：10月20日）

④治療院前でのブラックボード設置やホームページ、LINE@、インスタグラム、Facebookによる情報発信

⑤近隣大学運動部へのアプローチ（京都大学・京都産業大学）

⑥御所東クリニックとの医療連携

⑦京都大学男子ラグロス部との安全・安心のための部活にしていくための連携
（外部治療院連携）

⑧環境省参画の「熱中症予防 声かけプロジェクト」の活動として、治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

⑨自費メニューとして、慢性施術・美容・パーソナルトレーニング・アロマセラピーの実施

⑩発達障害支援サイト「凸凹じぶんび」に鍼灸治療についてのコラムを年 6 回程度掲載

⑪不登校児支援 NPO 法人「Reframe」運営の「くらら庵」にて 2 月 13 日に小児鍼講座を開催（会場 5 人、オンライン 4 人）

⑫臨床実習施設として、森ノ宮医療学園専門学校 柔整トレーナーコース 1 年生実習18回（合計36人）、柔整アドバンスコース3年生実習4回（計10人）を実施した。3年生においては、施術者管理のもと、学生による施術を行った。

森ノ宮医療大学 鍼灸学科 4 年生実習 5 回を実施。

【新規活動】

実習生からトレーナーとしてスポーツの現場に出たいとの要望があったため、トレーナー体験・実習ができるフィールドとして、京都大学女子ラグロス部と連携した。また、専門学校と協働し、日本女子プロサッカーリーグに所属しているINAC神戸レオネッサのアカデミーチーム（中学生・高校生）において、トレーナー実習現場を確保した。

(4) 運営状況等

上記サマリーに記載した通り、2022年度は、感染者数、濃厚接触者数増加により、患者数、売上ともに大幅に減少した。

【2021年度と2022年度の患者数と施術売上比較】

「2021年度患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
鍼灸施術数	69	63	74	50	58	87	76	85	63	56	48	61	790
接骨施術数	284	220	332	254	174	234	329	291	198	95	92	151	2,654
美容施術数	13	14	14	11	9	9	10	11	13	7	6	10	127
その他	53	55	53	35	36	42	65	48	32	28	52	36	535
計	419	352	473	350	277	372	480	435	306	186	198	258	4,106

「2022年度患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
鍼灸施術数	61	59	66	66	61	69	77	79	78	76	70	72	834	105%
接骨施術数	195	191	286	235	138	202	239	229	158	87	144	154	2,258	85%
美容施術数	11	4	12	7	4	8	10	9	8	12	14	7	106	83%
その他	22	34	48	28	28	32	28	20	52	25	23	28	368	68%
計	289	288	412	336	231	311	354	337	296	200	251	261	3,566	86%

「2021年度売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
鍼灸施術数	¥216,000	¥193,370	¥224,580	¥155,320	¥173,460	¥278,360	¥216,490	¥267,100	¥204,560	¥169,220	¥142,930	¥170,820	¥2,412,210
接骨施術数	¥482,060	¥374,067	¥548,983	¥407,200	¥270,070	¥345,247	¥499,200	¥400,800	¥284,867	¥160,333	¥171,160	¥262,233	¥4,206,220
美容施術数	¥74,000	¥80,500	¥91,000	¥82,000	¥80,000	¥79,000	¥91,500	¥84,000	¥93,000	¥59,000	¥55,000	¥82,000	¥951,000
その他	¥85,400	¥100,400	¥92,515	¥102,800	¥121,250	¥65,200	¥100,990	¥74,140	¥83,650	¥106,100	¥119,600	¥62,650	¥1,114,695
計	¥857,460	¥748,337	¥957,078	¥747,320	¥644,780	¥767,807	¥908,180	¥826,040	¥666,077	¥494,653	¥488,690	¥577,703	¥8,684,125

「2022年度売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
鍼灸施術数	¥186,100	¥187,550	¥208,380	¥195,130	¥169,950	¥192,650	¥223,120	¥225,460	¥219,590	¥223,630	¥199,166	¥221,430	¥2,452,156	101%
接骨施術数	¥299,526	¥276,029	¥426,184	¥324,901	¥237,003	¥285,535	¥337,254	¥345,123	¥221,091	¥129,988	¥210,159	¥205,624	¥3,298,417	78%
美容施術数	¥46,500	¥17,000	¥45,500	¥31,500	¥18,000	¥36,000	¥45,000	¥40,500	¥36,000	¥54,000	¥63,000	¥37,000	¥470,000	49%
その他	¥59,725	¥82,300	¥72,240	¥35,450	¥59,000	¥36,450	¥54,200	¥45,270	¥109,050	¥50,479	¥23,650	¥68,950	¥696,764	62%
計	¥591,851	¥562,879	¥752,304	¥586,981	¥483,953	¥550,635	¥659,574	¥656,353	¥585,731	¥458,097	¥495,975	¥533,004	¥6,917,337	79%

その他は慢性施術・トレーニング、O2、物販等

3. 森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール(WLS)

【サマリー】

WLSとしては初めての介護福祉士国家試験で留学生の合格者数としては日本一となる等、WLSが目指す「日本語・介護4年一貫教育」は着実に成果を上げている。

同時に、社会習慣や生活習慣の異なる国々からの留学生を包括的に支援する体制を構築の途上ではあるが、困難な状況が続いている。

【教務関係 日本語学科】

① 授業

- ・非漢字圏の学生を対象としているため、1日4 コマ授業のうち 1 コマは漢字の授業を行い、漢字への苦手意識の克服と定着を図った。
- ・年4回の定期試験に加え、日本語能力試験（JLPT）対策授業を定期的に取り入れ、学修の定着を図った。
- ・2021年度生および2022 年度生が日本へ一斉に入国し、対面授業や定期試験等、通常授業を実施した。
- ・日々、アプリを使った自主学习等、宿題等の課題を与え、学修の定着を図った。

② 成績

- ・年 4 回の定期試験を実施
- ・定期試験不合格者については再試験を実施し、理解度の定着を図った。

③ 出席状況

- ・各授業開始時に出席を確認し、遅刻・早退がないか出席管理を行った。授業開始時刻を過ぎても登校していない学生については、すぐに電話連絡を入れ出席管理を徹底した。
- ・欠席する際は、必ず事前に本人が電話連絡するよう指導し、無断欠席をゼロにできた。
- ・Zoom で授業に参加している学生にも欠席する場合は授業開始 10 分前までに担任に欠席のメールを入れるよう指導した。

④ 面談

- ・2～3か月に一度対面で個別面談を実施し、問題を抱えている学生については都度対処した。
- ・個々に問題を抱えている学生については、担任と学科長や、事務課の職員と複数名で個別面談を行い、学費や、学習、アルバイト等の問題に早期に対応するよう取り組んだ。

⑤ 授業アンケート

- ・2023年1月、学生に授業満足度アンケートを実施し、満足度を調査した。アンケートは、「わかりやすさ」等を問う形式で、評価は3段階とした。（後期：2023年1月に実施）
- ・アンケートの結果を受け、学生の意見を把握し、全教員に対し学科長面談を行った。

⑥日本語能力試験（JLPT） 対策

- ・2022年度7月のJLPTは10名、12月のJLPTは84名が受験した。
今年度はJLPTに特化したテキストを利用し、通常授業より JLPT 対策を取り入れた。入国時期を問わず各学生の日本語レベルでクラスを分け、試験3週間前には JLPT 対策週間を設け、試験問題に慣れるよう繰り返し問題を解かせた。
試験の3カ月前から JLPT の模擬試験を6回実施し、模試の成績が悪い学生には授業後1時間各レベルの補講を行なった。また全学生に宿題として漢字・語彙・文法の課題をモノグサ（アプリ）で与え、全問正解するまで問題を解かせ定着を図った。

⑦実用日本語検定（J-TEST）（1年に6回、奇数月に開催）

- ・2022年12月に開催された JLPT で N3 レベル以上に合格できなかった学生4名が3月の JTEST を受験した。JLPT の問題は全てマークシートだが、JTEST はマークシートと筆記も混在しているため、JTEST の問題に慣れるよう1月から3月の受験日まで過去問を利用し、繰り返し問題を解かせた。

⑧日本語NAT-TEST（1年に6回、偶数月に開催）

- ・2022年12月に開催された JLPT で希望レベルに合格できなかった学生12名が受験
NAT-TESTの問題に慣れるよう1月から2月の受験日まで過去問を利用し、繰り返し問題を解かせた。

⑨教員研修

・2 カ月に一度教員の勉強会を実施し、各科目や、Zoom 授業の指導法、学生の成績等の共有を行った。

2022 年 7 月 JLPT 結果

2022 年度第 1 回日本語能力試験 (2022 年 7 月 3 日実施)				
	受験者数	合格者数	合格率	国内合格率
N3	3	0	0%	-
N4	7	7	100.0%	-

2022 年 12 月 JLPT 結果

2022 年度第 2 回日本語能力試験 (2022 年 12 月 4 日実施)				
	受験者数	合格者数	合格率	国内合格率
N2	15	8	53.3%	-
N3	36	26	72.2%	-
N4	33	20	60.6%	35.8%

2023年 3 月 J.TEST 結果

2023 年 3 月 12 日実施			
	受験者数	合格者数	合格率
D-E レベル	4	3 名 (N3 レベル)	75%
		1名 (N4レベル)	25%

2023年 2 月 NAT-TEST結果

2023年2月19日実施			
	受験者数	合格者数	合格率
N2	2	0	0%
N3	9	5	55.5%
N4	1	1	100.0%

【教務関係 介護福祉学科】

① 授業

- ・入学直後より各学生の個々の日本語レベル、授業の理解度の把握に努めた。
- ・日本語能力が N3 以下、母国では勉強習慣が少なかった者、勉強方法がわからない者も多く、学習習得段階が様々であった。学習習得段階に応じた対応を行うために、1 年前期試験結果でクラス分けを行い、それぞれの学習の進捗や理解度に有ったクラス編成を行った。
- ・習得度の高いクラスに対しては、介護の語彙など基礎知識の理解を確認できるよう授業の工夫を行い、入学直後から授業の理解度把握を行うための小テストなどにも国家試験問題の 5 択問題で実施し設問形式に慣れさせるように努めた。また、国家試験合格に向けモチベーションの維持を課題とするように努めた。
- ・習得度の低いクラスに対しては、授業内容を理解できない場合が多く、最低限度理解しなければいけないことを中心に学習内容から重要な観点を抜き出し、その理解度を確認しながら指導を行った。また、国家試験受験・合格を目指すために日本語理解に向けた学習のモチベーションを上げていくことを課題とするように努めた。
- ・コロナ発症者、濃厚接触者に対し、ZOOM を使用したオンライン授業を実施。問題なく調に行えた。

② 出席状況

- ・学科の携帯電話と学生全員をラインで繋げ、欠席、遅刻時の事前連絡を徹底するようにオリエンテーションで指導を行った。一度だけのオリエンテーションで理解するという事が難しく、必要に応じて何回かに分けて行い、個人面談などにより個別のフォローを行った。
- 欠席が多い学生に対しては、関係する連絡先をできる限り多く把握しておくように努めるとともにアルバイト先、経費思弁者との情報共有を行った。

③ 個人面談

- ・クラス担任が、入学直後と後期授業開始時の 2 回行った。個人面談において、入学時は、まず、個々の宗教的ニーズを聞き取り対応策の検討を行った。また、面談を通して授業内容や学習上の悩みを聞き取り、それ以外の悩みに対しては、教職員全体で共有し検討した。

- ④ 経費思弁者、アルバイト先と学生の状況について、できる限り情報共有を行うように努めた。

⑤ 健康管理

・感染症対策として、登校時に検温と声掛けによる体調確認を徹底した。体調不良者には、聞き取りを行い各科への受診を促した。受診前に教員より受診先に「留学生であり日本語が不十分」である事を伝え、事前に電話による問診などをサポートした。

また、健康保険証の所持の確認を目視にて行い、保険料未納者に対して、健康保険証の必要性を指導した。

⑥ その他

・不法在留者（失踪）が 1 名あった。今後このようなことがないように、学生の様子を絶えず観察し、学生に対し不法滞在についての対応などの説明を必要に応じて何度も行い、今後、不法滞在者を出さないよう教職員間で徹底したい。

・また、月に一度、資格外活動等のアンケート調査を行い、資格外活動の状況等を把握した。特に、資格外活動許可の要件（週 28 時間等）が十分に理解できていない者には、個々の日本語レベルに応じた説明を行った。アンケート調査を行う際、住民税の支払い、健康保険料の支払いに関しても随時、確認を行った。

⑦ 第35回介護福祉士国家試験

受験者数	合格者数	合格率
66	33	50

【事業成果】

受験者数

	受験者数	合格者数
日本語学科	251 名	68 名
介護福祉学科	129名	72名

在籍者数 (2022 年 3 月 31 日)

	人数
日本語学科	97 名
介護福祉学科	138名

退学者数

	人数
日本語学科	2 名
介護福祉学科	6 名 (内除籍3名)

8. 派遣事業部

【サマリー】

福祉施設へ留学生のアルバイト紹介を行った。
派遣事業として、留学生に対して、労働に対する基本姿勢等の研修を行った。
新規派遣先福祉施設の開拓を行った。

① 留学生の紹介について

・2021年度生および2022年度生に対し、入国後の学生アルバイト派遣や、在校生で学費の支払いやアルバイトに困っている学生に対し、福祉施設の開拓を行い、派遣業務を行った。

② 派遣学生の研修実施

・総計50名の派遣学生に対し、キャリアアップに関する研修を行った。

【内容】

- ・マナー研修・・仕事に取り組む上での心構えや一般常識の理解
- ・コミュニケーション研修・・対人援助に必要な人間関係の関係性を理解し、コミュニケーションの基礎的な知識の習得
- ・介護福祉士の倫理研修・・被介護者の人権擁護やプライバシー権、生活環境や価値観の理解

③ 派遣先福祉施設の開拓

・ウェルランゲージスクールとして、現在7の法人との取引があるが、今後の定員数の増員を見据え、派遣先の福祉施設の開拓が急務となっており、新規開拓営業および既存の取引のある法人へ留学生の追加受け入れの依頼を行った。

④ 契約業務

・3か月に一度、各学生の派遣に対する契約更新有無、法人と学校の情報交換等の業務を行った。

⑤ 経理業務

・派遣先への請求書の作成および派遣学生への給与支払いを行った。

Ⅲ.決算の概要

2022年11月に大学附属診療所「大阪ベイクリニック」が開院した。

また、専門学校アネックス校舎北側に隣接する、2021年度末購入し、移転登記した校地については、2022年末には、購入校地を整地、土地表面の円滑化工事等を実施完了して、専門学校における正課授業の他、学生休息地及び課外活動用地として直接教育の用に供し活用する。

2023年3月末に上記大阪ベイクリニックの改修工事費用と2024年度からの新校舎「総合リハビリテーション学部棟」建設工事等、施設設備の投資を推し進め、このための資金調達について市中銀行と融資契約を締結した。

2022年の出生者数速報値では、80万人を割り、人口動態調査の想定から11年早く到達している。18年後の2040年には、当初の文科省推計から大幅に減少すると推計され、高等教育機関への進学率も大きな向上は見込めない。

大学・専門学校経営は大きな転換期を迎えており、閉鎖、再編統合、海外等に活路を見出す学校法人は多いと考えられ、中央教育審議会答申では、「定員割れや赤字経営の大学の安易な救済策とならないように配慮しつつ、大学等の連携・統合を円滑に進めるための仕組み作りや支援体制の実効性を高めるための方策の検討が必要である」としている。教育未来創造会議においても、「大学単独での改革はもとより、地域内外の大学との積極的な連携や統合を視野に置いた踏み込んだ対応」の検討も必要とされている。

上述の本学園を取り巻く外的な環境と学園の内部状況を踏まえて、中長期計画において、新学科、既存学科の適切な運営、適確な業務遂行のもとに、課題として財務分析業務などの精度と質的向上を継続実施している。また2023年度の私立学校法の改正や国の施策である修学支援制度についての「学校法人の経営要件（収容定員充足率、外部負債率、経常収支差額）のクリア」が学園全体の重要課題と認識している。

学校法人会計を適用するもの（森ノ宮医療大学・森ノ宮医療学園専門学校・
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール）

（１）学園の事業活動収支の状況

（単位：千円）

	項目	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	算式
1	教育事業活動収入	4,851,057	4,580,542	4,060,975	3,604,042	-
2	教育事業活動支出	4,516,174	4,109,095	3,916,397	3,338,217	-
3	教育活動収支差額	334,884	471,447	144,577	265,824	1-2
4	教育活動外収入	26	28	25	24	-
5	教育活動外支出	16,666	15,086	15,473	10,050	-
6	経常収支差額	318,244	456,389	129,129	255,798	3+4-5
7	特別収支差額（集計）	22,987	143,617	5,719	7,875	-
8	組入前当年度収支差額	341,230	600,006	134,849	263,673	6+7
9	基本金組入額	△434,625	△1,362,294	△414,754	△634,377	-
10	当年度収支差額	△93,395	△762,288	△279,905	△370,703	8+9
11	前年度繰越収入差額	△3,485,389	△3,187,096	△2,940,029	△2,578,623	-
	翌年度繰越収支差額	△3,545,281	△3,485,389	△3,187,096	△2,940,029	10+11

（２）正味資産の推移

（単位：千円）

	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
正味資産	13,711,365 （内現金預金総額 2,924,578）	13,370,134 （内現金預金総額 2,828,068）	12,770,127 （内現金預金産総額 3,584,244）	12,635,278 （内現金預金総額 3,193,151）
資産増加額	341,230	600,006	134,849	266,673